



2020 年度

シラバス SYLLABUS

帝京学園短期大学

は じ め に

本学が授業の内容や方法の改善を目指す自己点検・自己評価の一環として、シラバスの作成を始めたのは、平成5年度のことである。

教職員には、授業に関する学生の評価や意見を取り入れるための資料とし、学生には、講義内容の理解を深められるよう配布している。さらに他大学をはじめ、学外の関係諸機関にも広く配布し、その批正を仰いでいる。

また、現代の保育に必要な内容が講義の中に反映させられるよう、学生の教育・保育実習終了後にアンケートを実施している。それとともに授業についてのアンケートも半期毎実施し、それらの集計結果をもとに、年2回シラバス検討委員会を開催している。

さらに平成22年度より、各教科についての学習成果をシラバスに記載し、学生一人ひとりに履修カルテを作成して、各実習の事前事後指導で活用している。

平成26年度は、本学全体の学習の成果と各教科におけるシラバスとの関連性を図るとともに、さらに卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)との関連性や授業前後の学生の学修向上を図る課題も盛り込みながら、よりよい保育者の育成に努めていくこととする。

今後多くの意見を取り入れ、一層わかりやすく、利用しやすいシラバスを作成し、教育の充実に努めたいと考えている。

大方のご叱正を賜りたい。

2020年4月1日

帝京学園短期大学

学長 沖 永 莊 八

目 次

はじめに.....	1
目 次.....	3
I 履修案内.....	5
1. 授業科目の区分	5
2. 単位制	5
3. 卒業の要件	5
4. 科目ナンバリング	5
II 履修科目一覧.....	7
1. 卒業要件	7
2. 幼稚園教諭2種免許	9
3. 保育士資格	10
III 各ポリシーとの関連性.....	12
IV シラバス.....	15
教養科目	
LA101B1 英会話	マフリー 15
LA102A1 体育理論	井上 17
LA103C1 体育実技	井上 19
LA104A1 日本国憲法	石井 21
LA105A2 自然観察※	五味 23
LA106B1 情報機器演習	義見 25
LA107A2 児童館・放課後児童クラブの機能と運営	福田 27
LA108A2 児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法 I	河西 29
LA109A2 キャリア教育	井上 31
LA110A2 アカデミックスキルズ	川村 33
LA111A2 山梨学	(未定) 35
専門科目(基礎)	
BO201A2 保育原理 I	清水健 37
BO202A1 教育学概論	福田 39
NT203A2 子ども家庭福祉	石井 41
BO204A2 社会福祉	石井 43
NT205A2 子ども家庭支援論	福田 45
NT206A2 社会的養護 I	福田 47
BO207A1 保育者論	川村 49
BO208A1 発達心理学 I	清水一 51
NT209A2 子ども家庭支援の心理学	清水一 53
BO210B1 子どもの理解と援助	清水一 55
NT211A2 子どもの保健※	出口 57
NT212B2 子どもの食と栄養	川村 59
BO213A2 保育原理 II	吉田 61
NT215B2 小児保健※	出口 63
NT214A2 発達心理学 II	清水一 65
KT216A2 教育の方法と技術	三井 67
KT217B2 教育相談	清水一 69

専門科目(内容・方法)

BO301A1	教育課程・保育の計画と評価	清水健	71
BO302B1	保育内容総論	三井	73
BO303B1	保育内容演習(環境)	吉田	75
BO304B1	保育内容演習(健康)	井上	77
BO305B1	保育内容演習(言葉)	小林	79
BO306B1	保育内容演習(人間関係)	清水一	81
BO307B1	保育内容演習(表現)	田川	83
BO308B1	保育の表現技術(音楽)	田川	85
BO309B1	保育の表現技術(造形)	三井	87
BO310B1	保育の表現技術(体育)	井上	89
BO311B1	保育の表現技術(国語)	小林	91
NT312A2	乳児保育Ⅰ	川村	93
NT313B2	乳児保育Ⅱ	川村	95
NT314B2	子どもの健康と安全※	出口	97
BO315B1	特別支援教育論	清水健	99
NT316B2	社会的養護Ⅱ	福田	101
NT317B2	子育て支援	吉田	103
BO318A2	美術表現	三井	105
BO319A2	音楽表現	田川	107
BO320B1	保育技術研究Ⅰ	三井	109
BO320B1	保育技術研究Ⅰ	吉田	111
BO320B1	保育技術研究Ⅰ	田川	113
BO320B1	保育技術研究Ⅰ	津野	115
OT322B2	保育技術研究Ⅱ	三井	117
OT322B2	保育技術研究Ⅱ	吉田	119
OT322B2	保育技術研究Ⅱ	田川	121
OT322B2	保育技術研究Ⅱ	津野	123
BO321B2	基礎技能(器楽)	田川・関口・青木	125
OT322B2	子育て支援実践演習	里見	127

専門科目(実習・他)

NT401D2	保育実習Ⅰ(保育所)※	井上・福田他	129
NT402D2	保育実習Ⅰ(施設)※	三井・清水他	131
NT403B2	保育実習指導Ⅰ(保育所)	井上・福田	133
NT404B2	保育実習指導Ⅰ(施設)	三井・清水	135
NT405D2	保育実習Ⅱ(保育所)※	川村・清水他	137
NT406B2	保育実習指導Ⅱ(保育所)	川村・吉田	139
NT407D2	保育実習Ⅲ(児童館)※	福田他	141
NT408B2	保育実習指導Ⅲ(児童館)	福田	143
KT409D2	教育実習(幼稚園)※	川村・清水他	145
KT410B2	教育実習指導(幼稚園)	川村・清水	147
BO412B2	保育・教職実践演習(幼稚園)	吉田・清水・井上・三井	149

※の科目は、実務経験のある教員等による科目である。

I 履修案内

1. 授業科目の区分

本学の授業科目は、以下のように区分される。

(1) 教養科目、専門教育科目等

- ① 教養科目
- ② 保健体育科目
- ③ 専門教育科目

(2) 必修、選択必修、選択

- ① 必修科目・・・・・・・・必ず履修しなければならない科目
- ② 選択必修科目・・・・・・・・決められた科目の中から、何単位修得しなさい
と決められた科目
- ③ 選択科目・・・・・・・・自由に選択して履修できる科目

2. 単位制

授業科目には単位数が定められている。

単位とは学修に要する時間を表す基準で、1単位は、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習からなる自己学習が伴った45時間の学習を行った上で、さらに当該授業科目の行うべき授業回数の3分の2以上出席し、試験その他の方法により成績評価が合格と判定されることで得られるものである。

授業科目の単位数は、1単位を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としているが、単位を計算する上での1時間は45分とし、授業時間割上の1時限（1コマ）は2時間（90分）としている。

本学の授業科目の単位数は、授業形態により、原則として次の基準による。

- ① 講義・・・・・・・・15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習・・・・・・・・15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実習及び実技・・・・30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

3. 卒業の要件

本学を卒業するためには、2年以上在学し、

- ① 教養科目・・・・・・・・6単位以上
- ② 保健体育科目・・・・・・2単位以上
- ③ 専門教育科目・・・・・・55単位以上

合計63単位以上を修得しなければならない。

4. 科目ナンバリング（授業科目番号）

科目ナンバリングとは、本学で開講されているすべての授業科目に適切な番号を付し、

分類をすることで、学修の段階、順序等を表し、教育課程の体系的な編成を行うための制度である。

本学の科目ナンバリングの内訳は、下記の例で示す。

例 日本国憲法 LA104A1

内訳 LA 104 A 1
 ① ② ③ ④

①の分類

教養科目	LA
保育士養成課程科目	NT
幼稚園教諭課程科目	KT
両養成課程科目	BO
その他	OT

②の分類

教養科目	100 番台
専門科目（基礎）	200 番台
専門科目（内容・方法）	300 番台
専門科目（実習・他）	400 番台

③の分類

講義科目	A
演習科目	B
実技科目	C
実習科目	D

④の分類

必修科目	1
選択科目	2

Ⅱ 履修科目一覧

1. 卒業要件

科目区分	教科科目	授業 形態	開設単位数		備考
			必修	選択	
教養科目	日本国憲法	講義	2		
	自然観察	講義実習		2	
	情報機器演習（情報リテラシー含む）	演習	2		
	英会話	演習	2		
	キャリア教育	講義		1	
	アカデミックスキルズ	講義		1	
	山梨学	講義		1	
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	講義		2	
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	講義		2	
保健体育 科目	体育理論	講義	1		
	体育実技	実技	1		
小 計			8	9	
専門教育 科目	教育学概論	講義	2		
	保育原理Ⅰ	講義		2	
	保育原理Ⅱ	講義		2	
	社会的養護Ⅰ	講義		2	
	社会的養護Ⅱ	演習		1	
	子ども家庭福祉	講義		2	
	特別支援教育論	演習	2		
	社会福祉	講義		2	
	子ども家庭支援論	講義		2	
	保育内容総論	演習	1		
	保育内容演習（環境）	演習	1		
	保育内容演習（健康）	演習	1		
	保育内容演習（言葉）	演習	1		
	保育内容演習（人間関係）	演習	1		
	保育内容演習（表現）	演習	1		
	保育技術研究Ⅰ	演習	2		
	保育技術研究Ⅱ	演習		2	
	美術表現	講義		2	
	音楽表現	講義		2	
	乳児保育Ⅰ	講義		2	
	乳児保育Ⅱ	演習		1	
	子どもの理解と援助	演習	1		

発達心理学Ⅰ	講義	2		
発達心理学Ⅱ	講義		1	
子ども家庭支援の心理学	講義		2	
子どもの食と栄養	演習		2	
子どもの保健	講義		2	
子どもの健康と安全	演習		1	
小児保健	演習		2	
教育の方法と技術	講義		2	
教育課程・保育の計画と評価	講義	2		
保育者論	講義	2		
教育相談	講義		2	
子育て支援	演習		1	
教育実習指導（幼稚園）	演習		1	
教育実習（幼稚園）	実習		4	
保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2	
保育実習Ⅰ（保育所）	実習		2	
保育実習Ⅰ（施設）	実習		2	
保育実習Ⅱ（保育所）	実習		2	
保育実習Ⅲ（児童館）	実習		2	
保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習		1	
保育実習指導Ⅰ（施設）	演習		1	
保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習		1	
保育実習指導Ⅲ（児童館）	演習		1	
子育て支援実践演習	演習		1	
保育の表現技術（音楽）	演習	2		
保育の表現技術（造形）	演習	2		
保育の表現技術（体育）	演習	2		
保育の表現技術（国語）	演習	2		
基礎技能（器楽）	演習		4	
専門教育科目小計		27	61	
合 計		35	70	

2. 幼稚園教諭2種免許

教育職員免許法施行規則			教科科目	授業 形態	開設単位数		備考	卒業 必修
					必修	選択		
第 66 条の 6 に定める 科目	日本国憲法		日本国憲法	講義	2			●
	情報機器の操作		情報機器演習 (情報リテラシ ー含む)	演習	2			●
	外国語コミュニケーション		英会話	演習	2			●
	体育	体育理論	講義	1			●	
		体育実技	実技	1			●	
小 計					8			
領域及び保育内容の 指導法に関する科目	教科に関する科目	音楽	保育の表現技術 (音楽)	演習	2			●
			基礎技能 (器楽)	演習		4		
		図画工作	保育の表現技術 (造形)	演習	2			●
		体育	保育の表現技術 (体育)	演習	2			●
		国語	保育の表現技術 (国語)	演習	2			●
	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用 を含む。)	保育内容演習 (環境)	演習	1			●	
		保育内容演習 (健康)	演習	1			●	
		保育内容演習 (言葉)	演習	1			●	
		保育内容演習 (人間関係)	演習	1			●	
		保育内容演習 (表現)	演習	1			●	
		保育内容総論	演習	1			●	
		音楽表現	講義		2			
	美術表現	講義		2				
教育の基礎的理解に 関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	講義	2			●	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応 を含む。)							
	教職の意義及び教員の役割、職務内容 (チー ム学校への対応を含む。)	保育者論	講義	2			●	
	幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の 過程	発達心理学 I	講義	2			●	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒 に対する理解	特別支援教育論	演習	2			●	
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラ ム・マネジメントを含む。)	教育課程・保育の計画と評価	講義	2			●	
道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び 生徒指導、教育相談等 に関する科目	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活 用を含む。)		教育の方法と技術	講義	2			
	幼児理解の理論及び方法		子どもの理解と援助	演習	1			●
	教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な 知識を含む。) の理論及び方法		教育相談	講義	2			
教育実践に関する科 目	教育実習 (学校インターンシップ (学校体験 活動) を 2 単位まで含むことができる。) (5 単位)		教育実習指導 (幼稚園)	演習	1			
			教育実習 (幼稚園)	実習	4			
	教職実践演習 (2 単位)		保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習	2			
大学が独自に設定す る科目	大学が独自に設定する科目		保育原理 I	講義		2		
			保育原理Ⅱ	講義		2		
			小児保健	演習		2		
			社会福祉	講義		2		
			保育技術研究 I	講義	2			●
小 計					38	18		
合 計					46	18		

3. 保育士資格

保育士養成課程に よる系列		教科科目	授業形態	開設単位数			備考	卒業 必修
				必修	選択必修	選択		
教養科目	外国語、体育 以外の科目	日本国憲法	講義		2			●
		自然観察	講義実習		2			
		情報機器演習（情報リテラシー含 む）	演習		2			●
		キャリア教育	講義			1		
		アカデミックスキルズ	講義			1		
		山梨学	講義			1		
		児童館・放課後児童クラブの機能 と運営	講義			2		
		児童館・放課後児童クラブの活動 内容と指導法Ⅰ	講義			2		
	外国語	英会話	演習		2			●
	体育	体育理論	講義	1				●
		体育実技	実技	1				●
小 計				2	8	7		
保育の本質・目的 に関する科目	保育原理Ⅰ	講義	2					
	教育学概論	講義	2					●
	子ども家庭福祉	講義	2					
	社会福祉	講義	2					
	子ども家庭支援論	講義	2					
	社会的養護Ⅰ	講義	2					
	保育者論	講義	2					●
	保育原理Ⅱ	講義		2		※1		
保育の対象の理解 に関する科目	発達心理学Ⅰ	講義	2					●
	子ども家庭支援の心理学	講義	2					
	子どもの理解と援助	演習	1					●
	子どもの保健	講義	2					
	子どもの食と栄養	演習	2					
	発達心理学Ⅱ	演習		2		※1		
	小児保健	演習		2		※1		
保育の内容・方法 に関する科目	教育課程・保育の計画と評価	講義	2					●
	保育内容総論	演習	1					●
	保育内容演習（環境）	演習	1					●
	保育内容演習（健康）	演習	1					●
	保育内容演習（言葉）	演習	1					●
	保育内容演習（人間関係）	演習	1					●

	保育内容演習（表現）	演習	1				●
	保育の表現技術（音楽）	演習	2				●
	保育の表現技術（造形）	演習	2				●
	保育の表現技術（体育）	演習	2				●
	保育の表現技術（国語）	演習	2				●
	乳児保育Ⅰ	講義	2				
	乳児保育Ⅱ	演習	1				
	子どもの健康と安全	演習	1				
	特別支援教育論	演習	2				●
	社会的養護Ⅱ	演習	1				
	子育て支援	演習	1				
	美術表現	講義		2		※1	
	音楽表現	講義		2		※1	
	保育技術研究Ⅰ	演習		2		※1	●
	基礎技能（器楽）	演習		4		※1	
保育実習	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2				
	保育実習Ⅰ（施設）	実習	2				
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1				
	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1				
	保育実習Ⅱ（保育所）	実習		2		※2	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習		1		※2	
	保育実習Ⅲ（児童館）	実習		2		※3	
	保育実習指導Ⅲ（児童館）	演習		1		※3	
総合演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2				
保育士資格得科目 ではないが、学校 独自の科目として 開設されている教 科目	教育の方法と技術	講義			2		
	教育相談	講義			2		
	保育技術研究Ⅱ	演習			2		
	教育実習指導（幼稚園）	実習			1		
	教育実習（幼稚園）	実習			4		
	子育て支援実践演習	演習			1		
専門教育科目小計			55	22	12		
合 計			57	30	19		

1. 教養科目の必修科目 2 単位と選択必修科目から 6 単位以上、計 8 単位以上取得のこと。
2. ※1 の選択必修科目から 6 単位以上取得のこと。
3. ※2 又は※3 のどちらか一方の科目を 3 単位取得のこと。

Ⅲ 各ポリシーとの関連性

(建学の精神と三つの教育方針)

「学士課程教育の構築に向けて」 (審議のまとめ)	建学の精神 (教育目標)	学位授与の方針	教育課程編成・ 実施の方針	入学者受入方針
1. 知識・技能・理解 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連づけて理解する。 (1)多文化・異文化に関する知識の理解 (2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	(2)幅広い知識を身につけ、国際的視野に立って判断ができ (幼児教育に関する専門的知識、技能を習得した人材を育成する)	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること	(2)少人数教育による専門科目の履修と個人の習熟度に応じた保育技術の向上を図る教育課程であること	(1)保育の分野に関心のあるもの
2. 汎用的技能 知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1)コミュニケーション・スキル (2)数量的スキル (3)情報リテラシー (4)論理的思考力 (5)問題解決力	(3)実学を通して創造力および人間味豊かな専門性のある人材の養成を目的とする (社会人として必要な教養と広い視野を身につけた人材を育成する)	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること	(1)豊かな自然環境を活かし、社会人基礎力(ジェネリック・スキル)を習得できる教育課程であること	(2)保育の専門職として必要な知識や技術を学ぼうとするもの
3. 態度・志向性 (1)自己管理能力 (2)チームワーク、リーダーシップ (3)倫理性 (4)市民としての社会的責任 (5)生涯学習力	(1)努力をすべての基とし、偏見を排し (地域社会に貢献できる人材を育成する)		(3)地域の乳幼児や保護者と交流を深め、体験から学べる教育課程であること	(3)向上心のある者
4. 統合的な学習経験と創造的思考力 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力	(3)実学を通して創造力および人間味豊かな専門性のある人材の養成を目的とする (社会人として必要な教養と広い視野を身につけた人材を育成する)	(3)保育の課題を積極的に探求して いこうとする意欲をもっていること		

IV シラバス

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目	科目番号	LA101B1		
授業科目	英会話				担当教員	マフリー パトリック	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	通年	2	60	演習	必修	必修	選択必修
（授業の目的） 保育者として就労した際に想定される、園生活における日常的な英会話の習得を目指す。							
（授業の概要） 生活会話の宝庫である保育園の生活、なかでも年間行事と子どもの遊びに焦点をあて、保育の現場にも確実に押し寄せてきている国際化の波を実践的に理解させる。またナーサリーライムを中心とした英語の手遊びを数多く紹介し、日本のわらべ歌との相違を比較検討する。							
（授業の到達目標） ・保育者としてマスターしておきたい基礎的な英会話の習得 ・異文化への理解							
（卒業認定・学位授与の方針との関連）							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。							
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。							
【評価方法】 授業内課題40% 授業への取組み20% 定期試験40% 計100%							
【準備学習（予習・復習等）】 復習：各回毎、授業の復習を行うこと。（30分）							
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 「保育の英会話」 赤松直子・久富陽子著 萌文書林							
【参考図書】 「マザーグースとあそぶ本」 百々祐利子 監修・訳 ラボ教育センター							
【学生へのメッセージ】 授業内で、英語圏の子どもたちの手遊びやわらべ歌、行事等を紹介します。高校時代に英語が好きだった学生もそうでなかった学生も、英語にさらに興味を持ってもらえるような授業を心がけます。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要 と 準 備 学 習 (予習・復習等)
1	自己紹介とイスター
2	保育の英会話への第一歩 簡単な質問と答え・保育園で働く人々
3	みなと保育園によろこそ① 外国人の子どもの入園・あいさつ
4	みなと保育園によろこそ② デイヴィーの家族紹介・保育室
5	子どもに人気の英語のうたとゲーム①
6	子どもに人気の英語のうたとゲーム②
7	子どもに人気の英語のうたとゲーム③
8	地図と道案内 道順・案内
9	クラスメイトとの出会い① 紹介・子どもの遊び
10	クラスメイトとの出会い② 園庭の遊具
11	子どもと文化
12	形容詞と気分
13	英語の表現のポスター①
14	英語の表現のポスター②
15	英語の表現のポスター③
16	ハロウィン
17	排泄に関する会話① 排泄
18	排泄に関する会話② 連絡帳・英文でのコミュニケーション
19	英語を学びながら調理(実習)
20	けんか けんか・文房具・体の部位・命令文
21	けがと病気 けがと病気・症状・医療機関・応急処置
22	クリスマス
23	電話での対応① 電話での対応・園行事への招待
24	電話での対応② メッセージを書く・リスニング
25	遠足① 遠足・交通機関
26	遠足② IF構文・園からのお知らせ
27	赤ちゃんのケア① 赤ちゃんへの言葉かけ・育児用品
28	赤ちゃんのケア② 赤ちゃんの成長・発達
29	卒園① 卒園・祝福
30	卒園② 感謝・記念日まとめ

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目		科目番号	LA102A1	
授業科目	体育理論				担当教員	井上 聖子	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	前期	1	15	講義	必修	必修	必修
（授業の目的） 運動発現にかかわる生理学的な知識を把握してもらうことを目的とする。またそのことにより、自己の健康・体力に関心を持ち、日頃から身体活動量を増やす心がけや運動に親しむ姿勢、能力を育てることも目的とする。							
（授業の概要） 運動不足が心身の健康に弊害をもたらし、生活習慣病の一つの要因になっていることは、周知の通りである。そのため人々は、運動への関心を高めており、教育現場でも生涯体育が重要視されている。本講義では、生体が運動によって受ける機能的、形態的な影響、トレーニング効果、身体活動について、生理学的な観点から教授するとともに、自己の健康・体力に対する認識を深めてもらうよう教授する。							
（授業の到達目標） ・身体機能の素晴らしさを認識する。 ・自己の健康に関心を持つ。 ・日頃から身体活動を行おうという意識を持つ。							
（卒業認定・学位授与の方針との関連）							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。							
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。							
【評価方法】 課題レポート20% 定期試験80% 計100%							
【準備学習（予習・復習等）】 予習：事前に資料を配布するので、その単元について調べてくること。（30分） 復習：授業内容をまとめ、理解した点、理解できなかった点を明らかにし、学びを深めること。（30分）							
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 配布資料をもとに授業を進めていきます。							
【参考図書】 「健康・体力のための運動生理学」 石川利寛著 杏林書院							
【学生へのメッセージ】 生理学的なことを学びますが、難しい内容ではありませんので、自己の健康・体力についての認識を深めて下さい。授業で配布するプリントを中心に講義を進めていきます。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	からだの構造とはたらき (1)からだの構成 (2)からだの構造とはたらき
2	運動と筋の生理① (1)筋の種類と構造 (2)骨格筋の分類と構造
3	運動と筋の生理② (3)筋収縮の機構とエネルギー
4	運動と筋の生理③ (4)骨格筋の損傷と適応 (5)ウォーミングアップとクールダウン
5	運動と神経 (1)神経とは (2)運動と中枢神経 (3)運動と末梢神経
6	運動と循環の生理① (1)運動と心拍数 (2)運動と心拍出量
7	運動と循環の生理② (3)トレーニングと呼吸循環機能 (4)運動と血圧
8	運動と健康

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目		科目番号	LA103C1	
授業科目	体育実技				担当教員	井上 聖子	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	通年	1	30	実技	必修	必修	必修
(授業の目的) ニューススポーツのルールを理解し、ゲームが実施できるようにする。 また、生活の中に規則的に運動を取り入れることにより、体力の向上を図ることを目的とする。							
(授業の概要) ニューススポーツの種類や特性を知り、技術力の向上を図る。また身体を動かすことの楽しさを体感し、生涯にわたり計画的に運動に親しむ姿勢や態度を育てる。それらとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、豊かな生活を営める態度をも育てる。							
(授業の到達目標) ・運動することの楽しさを知り、生涯体育につなげていく。 ・運動することを通じて、活動への意欲を高める。 ・運動することを通して、他者と協力することの大切さを学ぶ。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。							
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。							
【評価方法】 実技点30% 学習意欲 70% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習: ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること。(30分) 復習: 授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 毎回の授業内で、課題解決のための指導を行う。							
【使用テキスト】							
【参考図書】							
【学生へのメッセージ】 ニューススポーツの楽しさを体感します。 運動のできる服装を用意して下さい。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	ニュースポーツ(1)
2	ニュースポーツ(2)
3	ニュースポーツ(3)
4	ニュースポーツ(4)
5	ニュースポーツ(5)
6	ニュースポーツ(6)
7	ニュースポーツ(7)
8	ニュースポーツ(8)
9	ニュースポーツ(9)
10	ニュースポーツ(10)
11	ニュースポーツ(11)
12	ニュースポーツ(12)
13	ニュースポーツ(13)
14	ニュースポーツ(14)
15	ニュースポーツ(15)

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目		科目番号	LA104A1	
授業科目	日本国憲法				担当教員	石井 秀夫	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	後期	2	30	講義	必修	必修	選択必修
(授業の目的) 日本という国の基本である憲法を学びながら、国の仕組みを理解する。国の文化・伝統についての理解を深め、国を愛するところを育てる。現代社会の諸問題を個人的立場を離れ、社会という大きな枠組みの中で理解する力を育てる。							
(授業の概要) 日本の国のあり方を定めた「日本国憲法」について、その基本的考え方を学びながら、日本の伝統と文化について理解を深める。とくに第1章天皇、第2章戦争の放棄、第4章国会については時間をかけて学び、日本社会と日本文化の基本を理解する。							
(授業の到達目標) 国の仕組みを理解する。日本の文化伝統を愛する。身のまわりの出来事を個人の主観的立場を離れて社会的・公共的視点(社会科学的視点)から理解する。結果としてニュースがわかるようになる。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。							
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。							
【評価方法】 授業中のレポート30% 授業への取組10% 定期試験60% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習: 授業で扱う憲法の条文を熟読し、内容を把握しておく。わからない単語は調べておく。ニュースや新聞に目を通し、社会的時事について関心を持つ。(各回45分程度) 復習: 資料やテキストを参考に、授業内容の要点を復習する。現在の社会問題、国際問題と憲法との関係を把握しておく。(各回45分程度)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 授業で課す課題(レポート)については、次の授業で解説し、要点を振り返る。試験は、選択問題については解答を公表し、論述問題については要点を公表する。							
【使用テキスト】 なし。授業前に配布する「日本国憲法」全文をテキストとして使用する。プリントされた条文が必要な者は、『日本国憲法 新装版』(講談社学術文庫)などを参考にするとよい。							
【参考図書】 池上 彰『超訳 日本国憲法 』(新潮新書)							
【学生へのメッセージ】 憲法を学んで、日本国民としての常識を身に付けよう。社会の仕組みがよくわかるようになります。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	ガイダンス 憲法とは何か 大日本帝国憲法と日本国憲法 日本国憲法の成立過程
2	前文を読み、憲法の概略を理解する
3	第1章 天皇 その1 象徴天皇
4	第1章 天皇 その2 天皇否定論を理解する
5	第1章 天皇 その3 天皇と日本文化
6	第2章 戦争の放棄 自衛隊の存在理由 国際情勢の変化と自衛隊
7	第2章 「第2次世界大戦」とは何だったのか 日本国憲法の基本にあるもの
8	第3章 国民の権利および義務
9	第4章 国会のしくみ
10	第5章 内閣のしくみ
11	第6章 司法のしくみ
12	第7章 財政のしくみ
13	第8章 地方自治
14	第9章、第10章 最高法規としての憲法と憲法改正の論点
15	まとめ

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目		科目番号	LA105A2	
授業科目	自然観察				担当教員	五味 愛美	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	前期	2	30	講義・実習	選択	－	選択
（授業の目的） 子どもと接する一人の保育者として、自然環境を知り、自然物に関心を持ち、その伝え方の手法について理解を深めます。							
（授業の概要） 保育士、幼稚園教諭の基本的な技術としての、自然の中での子どもを遊ばせる手法を学びます。子どもが自然の中に身を置く事は情緒の発達、コミュニケーション能力、五感の刺激、命の巧みの認知を促す事ができます。そのために保育者自身が自然生態系を知っておく事が必須です。園庭にある自然物、園外の公園や森で子どもが五感を使って自然を感じるための手法を学びます。（本講義は、インタープリター（自然ガイド）の実務家活動を基に行われる。）							
（授業の到達目標） ・基本的な自然物の生態系を知る。 ・野外での五感を使いながらの野外遊びが出来るようになる。							
（卒業認定・学位授与の方針との関連）							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。						○	
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。							
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。							
【評価方法】 授業への取り組み40% 課題レポート20% 試験40% 計100%							
【準備学習（予習・復習等）】 事前：予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後：ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る。(30分)							
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 特になし							
【参考図書】 「自然観察ハンドブック」 平凡社出版／(財)日本自然保護協会 「自然植物あそび一年中」 学研／出原大著							
【学生へのメッセージ】 「自然体験プログラム」は実習、「自然の理解」は講義となります。 野外実習がありますので、動きやすい服装でのぞんで下さい。毎回、身の回りの自然を観察しながらの授業になりますので、自然を活かした遊びを考えておいて下さい。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション 自然への関わり方に関する理解(昔遊びを思い出してみる)
2	自然体験プログラム① 保育者がまずは自然に触れてみる
3	自然の理解① 基本的な自然の構成物及び自然体験プログラムの組み立て方を知る
4	自然体験プログラム② 植物に焦点を置いたプログラム体験
5	自然の理解② 基本的な植物の生態を知る
6	自然体験プログラム③ 動物に焦点を置いたプログラム体験
7	自然の理解③ 基本的な動物の生態を知る
8	自然体験プログラム④ 昆虫に焦点を置いたプログラム体験
9	自然の理解④ 基本的な昆虫の生態を知る
10	自然体験プログラム⑤ 自然物を使ったクラフト体験。草花遊び。
11	自然の理解⑤ 危険な動植物、悪天候の場合の注意点、アクティビティ実施実習のための準備
12	自然体験プログラム⑥ アクティビティの実施実習
13	自然の理解⑥ NEAL自然体験指導者とは
14	自然体験プログラム⑦ アクティビティの実施実習
15	まとめ

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目	科目番号	LA106B1		
授業科目	情報機器演習(情報リテラシー含む)				担当教員	義見 善知	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	選択必修
(授業の目的) 情報社会において、インターネット利用に関しての正しい知識及びマナーの理解、表現メディアの編集と表現に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てると同時にディプロマポリシーに対応する演習をめざす。							
(授業の概要) 情報社会において必要とされているコンピュータ利用スキル並びに情報倫理に関する講義を行う。 そして、大学内外で必須となる情報処理に関する実践的能力を習得するために、具体的な課題を解決する演習を行う。							
(授業の到達目標) ・インターネットの正しい利用を理解させる(法規・セキュリティ) ・園だより・園案内・児童台帳・ホームページの作成 ・PCの基礎知識・幼児教育現場での活用例の習得							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 定期試験10% 各検定10% 授業態度10% 課題レポート70% 計100%							
【準備学習(予習・復習)】 予習: 毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと。(30分) 復習: 授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 「保育者のためのパソコン講座」 阿部正平・阿部和子・二宮祐子 編著(萌明書林) 日本情報処理検定協会問題集 ※毎授業ごとテキストプリントを配布します。							
【参考図書】 Adobe Photoshop 基礎テキスト ACA PhotoshopCS6 広田正康 著(ソーテック社) Illustratorトレーニングブック 広田正康 著(ソーテック社) IllustratorCS6の本 佐々木京子 著(技術評論社)							
【学生へのメッセージ】 課題制作に対する取り組み、および授業への積極的参加度等をふまえて総合的に判断し評価する。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	受講の説明、PCの基本操作、注意説明
2	通信文Ⅰ 通信文の書式を学ぶ。文章の位置関係
3	通信文Ⅱ 通信文の作成 表の挿入、受信者と発信者
4	通信文Ⅲ 通信文の作成 図形挿入による地図の作成方法
5	通信文Ⅳ 通信文の応用 線による地図の作成方法、方位記号の作成方法
6	課題演習 通信文検定 保育園・幼稚園の事例を挙げ時間内に作成
7	文章デザインⅠ 文章デザインの基礎を学ぶ フォント、サイズ、フォントデザイン、表の挿入
8	文章デザインⅡ 文章デザインの作成 文字の加工、図形の加工、表の加工、画像の挿入
9	文章デザインⅢ 文章デザインの応用 レイアウトの加工、特殊文字、ドロップキャップ
10	課題演習 文書デザイン検定 レイアウト課題を与え時間内に作成
11	文章デザイン課題制作 「画家ポール・セザンヌについての考察」
12	画像処理Ⅰ 画像処理の基礎を学ぶ。(Photoshop) ペイント系ブラシによる修復方法
13	画像処理Ⅱ 画像処理の基礎を学ぶ。(Photoshop) ピクセル(画素)単位の修復方法
14	画像処理Ⅲ レイヤーの操作方法(Photoshop) レイヤースタイルの適用、画像の合成
15	画像処理Ⅳ フィルターの操作方法(Photoshop) Creative Cloudの進化の軌跡と、トップクリエイターのCreative Cloud活用法
16	画像処理Ⅳ アンディウォーホルの世界 課題制作 シルクスクリーン技法での作品を制作(Photoshop)
17	図形描写Ⅰ 図形処理の基礎を学ぶ。ベクター形式の図形操作(Illustratorオペレーション基礎)
18	図形描写Ⅱ 図形のハンドリング ベジェ曲線の特長(Illustrator)
19	図形描写Ⅲ 文字・図形・画像の統合処理(アプリケーションの連携)
20	課題制作 園だよりの作成Ⅰ マイホルダー画像の編集
21	課題制作 園だよりの作成Ⅱ 文字・イラスト・地図の編集
22	課題制作 園だよりの作成Ⅰ 最終仕上げ、校正、印刷
23	プレゼンテーションⅠ 園案内の作成 発表内容の設計と制作
24	プレゼンテーションⅡ 園案内の作成 資料の制作
25	表計算ソフトⅠ 児童台帳の作成 セルの設定 入力規制
26	表計算ソフトⅡ 児童台帳の作成 並び替え カウント系関数の利用
27	ホームページ作成Ⅰ CSSを利用した編集
28	ホームページ作成Ⅱ CSSの設定と編集作成
29	法規とセキュリティ 情報の管理・保護に関する法律
30	まとめ 幼児教育におけるPCの運用 その他 年間既習事項の復習と確認

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目		科目番号	LA107A2	
授業科目	児童館・放課後児童クラブの機能と運営				担当教員	福田 光弘	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	前期	2	30	講義	選択	－	選択
（授業の目的） 児童福祉の基本理念である「健全育成」の考え方を理解するとともに、現代の子どもの健全育成の課題について学ぶ。また、その理念を地域で具現する児童館・放課後児童クラブの機能を理解する。							
（授業の概要） 児童館・放課後児童クラブとはどのような施設であり、どのような理念に基づいて運営されているかを学ぶ。その中で、現状における両施設の動向について概観する。							
（授業の到達目標） ・児童館について理解する。 ・放課後児童クラブについて理解する。 ・児童の健全育成について理解する。							
（卒業認定・学位授与の方針との関連）							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 授業内提出物など50% 定期試験50% 計100%							
【準備学習（予習・復習等）】 事前：テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 事後：配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)							
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。定期試験について、試験後解説を行う。							
【使用テキスト】 授業内で指定する。							
【参考図書】 『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論』一般財団法人 児童健全育成推進財団							
【学生へのメッセージ】 授業内配布物を参考に、分からない箇所は教科書の該当部分を熟読することや、授業担当者に質問することで復習し、学期末に備えてください。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション(講義内容、評価方法の説明)
2	児童福祉法の理念と健全育成
3	健全育成の具体的内容と遊びの健全育成上の意味
4	児童館・放課後児童クラブの変遷
5	児童館・放課後児童クラブの概要と特性
6	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能①
7	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能②
8	放課後児童クラブの「基準」「運営指針」「認定資格研修」
9	運営管理(法令遵守、子どもの権利擁護、要望苦情への対応)
10	安全対策(安全管理・危機管理、防災・防犯、事故防止活動)
11	児童館・放課後児童クラブの環境構成
12	児童館・放課後児童クラブにおける障害児支援
13	児童厚生員・放課後児童指導員の職場倫理
14	児童館・放課後児童クラブの課題と展望
15	まとめ

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目	科目番号	LA108A2		
授業科目	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ			担当教員	河西 美代子		
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	集中	2	30	講義	選択	－	選択
(授業の目的) 「あそび」を通じて少子化対策の推進、いじめ、児童虐待、不登校、青少年犯罪など、多様化し複雑化する児童問題へ対応する児童館の役割について理解を深める。							
(授業の概要) 児童館の機能と役割を学習し、児童館における児童健全育成活動の手法を学ぶなかで、児童館における児童健全育成活動の初歩的な手法と運営について包括的に学んでいく。(本講義は、児童厚生員の実務家活動を基に行われる。)							
(授業の到達目標) ・児童館の持つ機能と役割の基本を理解する。 ・健全育成の手段としてのあそびを理解する。 ・あそびを実践し、その効果を分析する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 授業内課題50% 学習マナー20% 試験30% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習: 授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく。(30分) 復習: 学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 毎回、授業時にプリントを配布する予定。							
【参考図書】 児童館 理論と実践／発達障害のある子どもたちの受け入れのために／児童館・放課後児童クラブのための安全対策ハンドブック すべて著&出版:(財)児童健全育成推進財団 発行:全国児童館連合会							
【学生へのメッセージ】 児童館についてを知識として知るとともに、「健全育成としてのあそび」は、実際に体験する中で実感・理解することが大切です。そのため、授業中に紹介する「あそび」について積極的に参加する姿勢を求めます。野外も想定した「活動しやすい服装・靴」で受講してください。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	児童福祉法に定められた児童福祉施設としての児童館の役割 課題:「児童館」のイメージを考える
2	「放課後子どもプラン」と児童館・児童クラブ
3	児童館の個別援助活動について
4	個別援助活動と集団援助活動について
5	児童館の集団援助活動について
6	グループ遊びについて
7	児童館における安全管理
8	児童館における要保護児童の対応について
9	児童館における地域組織活動について
10	児童館における工作遊びについて
11	児童館における自然遊びについて
12	児童館における表現遊びについて
13	児童館における体力増進活動について
14	児童館におけるゲーム運動遊びについて
15	まとめ

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目		科目番号	LA109A2	
授業科目	キャリア教育				担当教員	井上 聖子	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1・2年	通年	1	15	講義	選択	—	—
(授業の目的) 近年の社会情勢や労働市場の動向について理解を深め、自分らしい生き方・働き方を考える。それらを基に職業観を形成し、自らの力で生き方を選択できるようキャリア形成を行う。また社会人として必要な基礎能力や態度を身に付けることも目的とする。							
(授業の概要) ワークシートを作成したり、グループワークを通して、自己や他者の理解を深め、対人関係のスキルも向上させる。園長先生や卒業生等社会に出て働いている方の講演を聞くことにより、働くことの意義や職業観を形成していく。また社会人としてのマナーも身に付けていく。							
(授業の到達目標) ・自己や他者の理解を深めることができる。 ・社会人として課題解決する力やコミュニケーション能力を身に付けることができる。 ・自分が自分として生きるためのキャリア形成ができる。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。							
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 発表(50%) レポート(50%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習: 事前に配布した資料をもとに、その内容について調べてくること。(30分) 復習: 授業内容をまとめ、自分自身のキャリア形成に役立てること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。							
【使用テキスト】 配布資料をもとに授業を進めていきます。							
【参考図書】							
【学生へのメッセージ】 自己理解を深め、社会に出る前の知識や技能について学びます。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション キャリア教育とは何か
2	ワークシート作成 自己理解を深める
3	社会や保育で求められる資質とは(園長先生による講演)
4	社会や保育で求められる資質とは(卒業生にによる講演)
5	社会や保育で求められる資質とは(園長先生による講演)
6	社会人として求められるマナーとは(マナー講師による講演)
7	社会人として求められる資質(園長先生による講演)
8	自分らしく生きるためのキャリア形成

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目	科目番号	LA110A2		
授業科目	アカデミックスキルズ				担当教員	川村めぐみ	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	通年	1	15	講義	選択	－	－
（授業の目的） ・高等教育機関で学ぶための技法について、高校と大学の学び方の違いについて理解し、主体的な学習者となるための基礎を習得する。							
（授業の概要） ・高校と大学の違い／大学での学び方／短期大学卒業者に期待される資質・能力／保育者として身に付けて欲しい資質・能力について学び、2年間の学びの見通し、基本的な学び方を習得する。							
（授業の到達目標） ・短期大学での学び方を理解し、主体的に学ぶ姿勢を理解した。 ・短期大学卒業者に期待される資質・能力及び保育者として身に付けて欲しい資質・能力について理解出来た。 ・情報検索の方法や文献の要約について理解し、レポートの記述についての基本的スキルが身についた。							
（卒業認定・学位授与の方針との関連）							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。							
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 ・グループワークへの参加の評価 ・プレゼンテーションの評価 ・提出物							
【準備学習(予習・復習等)】 毎回の授業内容から提示する。							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 ・各時間の授業内で提示された課題シートは、確認後返却する。							
【使用テキスト】 なし							
【参考図書】 毎回資料を配布します。							
【学生へのメッセージ】							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	アイスブレイク(自己紹介) 自分が通う大学について知る(建学の精神・教育目標～3つのポリシー等、本学について理解を深めます。)
2	自分の将来について考える(自己達目標・2年間の学びの計画を立てる。学修ポートフォリオについて)
3	大学生のスタディ・スキルズ(学びのデザイン)
4	情報収集・整理法
5	文章での表現法(要約する力)
6	大学図書館・学びの空間を活用する
7	レポートの書き方・資料の探し方
8	初年次の振り返り

科目区分	教養科目	科目分類	教養科目		科目番号	LA111A2									
授業科目	山梨学				担当教員	(未定)									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
2年	通年	1	15	講義	選択	－	－								
(授業の目的) 本学が所在する「山梨県」の保育に関する現代的な課題について分析、検討、考察を行うことを通して、問題の解決について学びを深め、今後の自身の保育スタイルを確立していく。															
(授業の概要) 「山梨県の保育」をテーマに現代的な課題を考察する機会として、保育現場の施設長や保育者を招いて講演会を開催する。講演会を通して、実際の保育現場の姿や保育現場に求められる保育者像について学びを深める。 また、卒業後に保育者としてより広い視野を持って保育現場に従事することができるよう、山梨県の様々な自然や文化、社会資源等、教育資源となりうる環境について幅広く学び、理解を深める。															
(授業の到達目標) ・実際の保育現場の姿や保育現場に求められる保育者像について学びを深める。 ・山梨県の様々な自然や文化、社会資源等、教育資源となりうる環境について理解を深める。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。</td><td></td></tr><tr><td>(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td></td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。		(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。	○														
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。															
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。															
【評価方法】 ・講演会の参加レポート課題 ・プレゼンテーションの評価 ・その他提出物															
【準備学習(予習・復習等)】 毎回の授業内容から提示する。															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 ・各時間の授業内で提出された課題を確認後、返却する。															
【使用テキスト】 なし															
【参考図書】 毎回資料を配布します。															
【学生へのメッセージ】															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境①
2	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境②
3	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境③
4	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境④
5	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境⑤
6	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境⑥
7	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境⑦
8	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境⑧

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	BO201A2	
授業科目	保育原理Ⅰ				担当教員	清水 健	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	前期	2	30	講義	選択	選択必修	必修
(授業の目的) 幼児の保育・教育の本質について理解し、幼児の保育・教育の場に関する歴史と類型について学ぶことを通して、保育所・幼稚園における保育・教育の原理と内容について理解する。さらに、発達過程区分における幼児の保育・教育内容の理解を通じて、幼児の保育・教育計画作成上の基本的視点や留意点について学ぶ。また、幼稚園・保育所での健康・安全上の留意事項及び多様な幼児の保育・教育ニーズへの対応について理解する。							
(授業の概要) 幼児の保育・教育に関する基礎的事項についての理解を深め、幼児の保育・教育の意義について明確な認識を持つ中で幼児に対する保育・教育に関する総論を学ぶ。							
(授業の到達目標) ・幼児の保育・教育の本質について、理解する。 ・幼稚園、保育所での幼児の保育教育的ニーズを理解する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 学習マナー40% 定期試験40% 課題レポート20% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却しフィードバックを行う。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 「保育原理」小田豊他編著 光生館							
【参考図書】 「PriPriブックス 新保育所保育指針サポートブック ～保育家庭から指導計画作成まで～」 保育総合研究会監修 世界文化社							
【学生へのメッセージ】 幼稚園や保育所・施設それぞれの幼児の保育・教育の基礎、原理について学ぶため、毎回の授業終了後、学び得たことをまとめたレポートを提出してもらう予定である。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	幼児の保育・教育とは何か(本質と原理)
3	幼児の保育・教育制度の歴史と世界の動向
4	幼児の保育・教育の場とその役割－幼稚園の実際－
5	幼児の保育・教育の場とその役割－保育所の実際－
6	幼児の保育・教育の場とその役割－保育所以外の児童福祉施設の実際－
7	乳幼児の発達特性の理解(1)乳児期
8	乳幼児の発達特性の理解(2)幼児期
9	発達段階と発達課題(1)乳児期
10	発達段階と発達課題(2)幼児期
11	幼児の保育・教育計画の立案・展開・評価の実際(1)－計画作成上の留意点－
12	幼児の保育・教育計画の立案・展開・評価の実際(2)－発達過程区分ごとの内容と計画(1)－乳児期
13	幼児の保育・教育計画の立案・展開・評価の実際(3)－発達過程区分ごとの内容と計画(2)－幼児期
14	幼児の保育・教育計画の立案・展開・評価の実際(4)－発達過程区分ごとの内容と計画(3)－幼児期
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	BO202A1	
授業科目	教育学概論				担当教員	福田 光弘	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	後期	2	30	講義	必修	必修	必修
(授業の目的) 現代の学校教育に関する社会的な状況を考察し、今後の教育政策の動向について理解する。特に、地域における学校のあり方を重視し、学校と地域の連携や協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。また、学校における危機管理について、現代の社会状況の中で何が求められているのかを考察する。							
(授業の概要) 教育、特に幼児教育分野についての変遷や、それを下支えした思想上の変遷を概観し、現代における子ども観がどのように成立したかを理解する。現状における教育観・子ども観においてどのような地域を含む学校外の人々との関係が可能であるのかを、事例を通して考察する。また、事件・事故・災害・感染症など、様々な学校をめぐるリスクについて理解する。							
(授業の到達目標) ・教育の基本的概念・理念について、教育の歴史や思想を通して学び、教育及び学校の捉え方の変遷について理解する。 ・現代の学校教育に関する社会的な状況を考察し、今後の教育政策の動向などについて理解する。 ・地域における学校のあり方を重視し、学校と地域の連携や協働の仕方について理解する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。							
【評価方法】 定期試験(80%)、学習マナー(20%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前:テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 事後:配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 定期試験について、試験後解説を行う。							
【使用テキスト】 福元真由美編『はじめての子ども教育原理』(有斐閣)							
【参考図書】 授業内で適宜示す。							
【学生へのメッセージ】 授業時には必ず、教科書と既に配布したプリントを持参すること。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	「教育」の意味について
2	子ども教育の系譜
3	子ども教育の制度とその改革Ⅰ（公教育ならびに幼児教育の成立）
4	子ども教育の制度とその改革Ⅱ（教育方法の成立と改革）
5	子どもという存在Ⅰ（子ども観の変遷）
6	子どもという存在Ⅱ（子どもの権利）
7	子ども教育をめぐる思想Ⅰ（教育思想の変遷）
8	子ども教育をめぐる思想Ⅱ（教育思想の変遷）
9	子ども教育をめぐる思想Ⅲ（教育と社会）
10	子ども教育をめぐる思想Ⅳ（教育と社会）
11	経済格差と教育Ⅰ
12	経済格差と教育Ⅱ
13	教育活動を支える組織と運営Ⅱ（学校と地域との連携・学校安全への対応）
14	気になる子の理解と対応
15	諸外国における子ども観と教育

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	NT203A2	
授業科目	子ども家庭福祉					担当教員	石井 秀夫
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	前期	2	30	講義	選択	－	必修
(授業の目的) 現代の子どもが置かれている状況を理解する。子ども家庭福祉についての考え方の歴史を理解する。また、子ども家庭福祉の制度と現状について理解する。							
(授業の概要) 少子化、核家族化が進行した現代社会において児童の養育はどのように行われているのか、その現状について理解を深めるとともに、社会福祉の視点からどのような支援が可能か考える。子ども家庭福祉の実施体制や法体系についても理解を深める。							
(授業の到達目標) ①現代の子どもが置かれている状況を理解する。②子ども福祉の制度と実施体制について理解する。③家庭の中で養育される児童、施設で養育される児童について、その現状と福祉対策について理解する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 授業内レポート30% 定期試験70% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習:授業に臨む前に該当部分について下調べをし、問題点を把握しておく。自分の考え方をまとめておく。(45分) 復習:配布プリントを見なおし、授業中課した課題について調べ、正しい答えを書き出しておく。(45分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 授業中の小レポートは次回の授業で要点を解説する。定期試験の選択問題については解答を公表、自由記述については要点を公表して自己採点の一助とする。							
【使用テキスト】 テキストなし 授業ごとにプリントを配布する。							
【参考図書】 山縣 文治『子ども家庭福祉論[第2版](シリーズ・福祉を知る)』2018ミネルヴァ書房 倉石哲也(監修), 伊藤嘉余子(監修, 編集), 澁谷昌史(編集)『子ども家庭福祉 (MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉)』2017ミネルヴァ書房							
【学生へのメッセージ】 子どもの育成に責任のある保育者として必要な考え方と福祉の制度についてよく学んでください。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	ガイダンス 講義内容、学習方法、評価方法など
2	子ども家庭福祉の考え方 児童の権利宣言、児童の権利に関する条約、児童憲章
3	児童福祉法とは
4	児童観の変遷
5	児童の生活と家庭問題
6	実施体制、児童相談所、福祉事務所、民生委員、児童委員
7	健全育成対策と要保護児対策
8	保育所 待機児童
9	現代社会の中の子ども
10	地域の中の子ども 地域社会の崩壊 学校教育と子ども 仲間集団 遊び集団
11	核家族化と子ども 離婚問題 児童虐待
12	父親の役割 母親の役割
13	家族関係と児童の育成
14	親子関係 兄弟姉妹関係
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	BO204A2	
授業科目	社会福祉					担当教員	石井 秀夫
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	前期	2	30	講義	選択	選択必修	必修

(授業の目的)

社会福祉は「してあげる」ものではなく、「させていただくもの」。福祉をすることが自分を豊かにすることであるという「福祉の原点を自分の生き方の中に定着させる。その態度を身に付けた上で福祉の制度や現状について理解を深める。

(授業の概要)

社会福祉は何のためにあるのか。その基本的な考え方を自分の生き方との関連で理解する。その上で現代社会における社会福祉の現状について考察する。社会福祉の法体系と社会福祉の仕事についても理解を深める。

(授業の到達目標)

- ・福祉は何のためにするのか理解する。
- ・障がい者、高齢者、生活困窮者など各分野の福祉制度を大まかに理解する。
- ・社会福祉各分野を大まかに理解する。

(卒業認定・学位授与の方針との関連)

ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	

【評価方法】

授業内レポート40% 定期試験60% 計100%

【準備学習(予習・復習等)】

予習: 授業に臨む前に該当部分について下調べをし、問題点を把握しておく。自分の考え方をまとめておく。(45分)
復習: 配布プリントを見なおし、授業中課した課題について調べ、正しい答えを書き出しておく。(45分)

【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】

授業内レポートは、次回授業で講評する。定期試験は、選択問題については解答を公表し、記述問題については要点を公表し、自己採点の一助とする。

【使用テキスト】

テキストなし 授業ごとにプリントを配布する。

【参考図書】

行政データが必要な場合は「国民の福祉と介護の状況」等参照。
保育士試験対策委員会(著), 汐見 稔幸(監修)『福祉教科書 保育士 完全合格テキスト』などを参考にして学習すること。

【学生へのメッセージ】

「福祉は人のためではなく自分のためにする」という考え方ができるようになってほしい。
社会福祉を通して日本社会の仕組みを理解してほしい。

授 業 計 画

回	授 業 概 要 と 準 備 学 習 (予習・復習等)
1	ガイダンス 講義内容、評価方法
2	社会福祉の考え方 日本国憲法第25条
3	社会福祉の考え方 ① 社会福祉の必要性
4	社会福祉の考え方 ② 福祉に依存すること
5	社会福祉の考え方 ③ フロム「愛するということ」
6	障害者福祉 ノーマライゼーションの考え方
7	障害者福祉 自立生活
8	身体障害者福祉法
9	障害者自立支援法
10	公的扶助(生活保護)の3原理4原則
11	公的扶助 生活保護の現状 保護率 捕捉率 都道府県別 世帯別
12	高齢者福祉 高齢化社会
13	高齢者福祉 介護保険制度
14	年金制度 健康保険制度
15	高齢者福祉 まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	NT205A2									
授業科目	子ども家庭支援論				担当教員	福田 光弘									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
2年	後期	2	30	講義	選択	－	必修								
(授業の目的) 1. 家庭・家族の意義やその機能、家庭・家族を取り巻く社会的状況について理解させる。 2. 子育て家庭への支援体制や関係機関との連携について理解させる。															
(授業の概要) 家庭・家族の現代社会における意義や機能を理解し、家庭や家族も含めて現代の保育は成立しているということについて、十分な知識をつける。その中で、保育士としてどのような家庭・家族への支援が行えるかを模索していく。															
(授業の到達目標) ・保育の対象は児童だけではなく家庭・家族も含まれることを理解する。 ・家庭・家族が現代世界においてどのような状況に置かれているかを理解する。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td></td></tr><tr><td>(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。		(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。															
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 定期試験80% 学習マナー20% 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 事前:テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 事後:配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 定期試験について、試験後解説を行う。															
【使用テキスト】 『子ども家庭支援論』 溝口元・寺田清美 編著 アイ・ケイ コーポレーション															
【参考図書】 授業内で適宜紹介する															
【学生へのメッセージ】 授業時には必ず、教科書と既に配布したプリントを持参すること。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション(講義内容、評価方法の説明)
2	家族支援の必要性
3	保育士等が行う家庭支援の原理
4	現代の家庭と地域社会における人間関係
5	男女共同参画とワーク・ライフ・バランス
6	少子化対策施策・次世代育成支援施策
7	子育て家庭の支援体制Ⅰ
8	子育て家庭の支援体制Ⅱ
9	家庭支援の展開の多様性と関係機関との連携Ⅰ
10	家庭支援の展開の多様性と関係機関との連携Ⅱ
11	要保護児童およびその家庭に対する支援Ⅰ
12	要保護児童およびその家庭に対する支援Ⅱ
13	子ども家庭支援の課題と展望Ⅰ
14	子ども家庭支援の課題と展望Ⅱ
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	NT206A2									
授業科目	社会的養護Ⅰ				担当教員	福田 光弘									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年	前期	2	30	講義	選択	—	必修								
(授業の目的) 保育者として社会的養護に対して貢献できることは何かを理解し、子育て支援の一環としての社会的養護という視点を涵養し、保育士としての見識を深めることを目的とする。															
(授業の概要) 社会的養護が必要となる養護問題の現状を理解するとともに、社会的養護の意義と歴史的変遷、制度体系について学ぶ。また、社会的養護における児童の人権擁護や自立支援について理解すると同時に、今後の社会的養護の展開についても検討していく。															
(授業の到達目標) ・社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景を理解する。 ・社会的養護の援助体制や、そこでの児童観について考察する。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td></td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。															
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 定期試験80% 学習マナー20% 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 事前:テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 事後:配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 定期試験について、試験後解説を行う。															
【使用テキスト】 『社会的養護Ⅰ・Ⅱ』 谷口純世・加藤洋子・志濃原阿美 編著 光生館															
【参考図書】 授業内で適宜紹介する															
【学生へのメッセージ】 授業時には必ず、教科書と既に配布したプリントを持参すること。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション（授業体制や評価、全体的な枠組み）
2	社会的養護の理念と概念
3	社会的養護の歴史的変遷
4	子どもの権利擁護
5	社会的養護の基本的原則
6	保育士間等の倫理・責務
7	社会的養護にかかわる制度と法体系Ⅰ（子ども虐待防止・子どもの貧困対策・ひとり親への支援）
8	社会的養護にかかわる制度と法体系Ⅱ（DV対策・障害児や気になる子どもへの支援）
9	社会的養護のしくみと実施体系
10	社会的養護の対象
11	家庭養護と施設養護Ⅰ（施設養護の現状）
12	家庭養護と施設養護Ⅱ（家庭養護の課題）
13	社会的養護にかかわる専門職
14	社会的養護の現状と課題
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目（基礎）		科目番号	BO207A1	
授業科目	保育者論				担当教員	川村めぐみ	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	後期	2	30	講義	必修	必修	必修
（授業の目的） ・保育者の役割が多様化する中で、保育者を目指すために必要な基礎的知識を学び、卒業時の保育者としての姿をイメージしながら、自己課題を意識し保育者としての資質・能力を高める事を目的とする。							
（授業の概要） ・保育者の役割や制度的位置づけなど、基礎的な知識を理解する。事例研究や、グループディスカッションを通して学びを深める。 各回の授業概要は（ ）に示す。							
（授業の到達目標） （1）保育者の役割、制度的位置づけを理解した上で、求められる資質・能力について理解する。 （2）保育者の役割の拡大・多様化への理解と園内及び園外の専門機関との連携や協働について理解する。 （3）保育者の職能成長とキャリア形成について理解する。							
（卒業認定・学位授与の方針との関連）							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
（1）社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。						○	
（2）幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。						○	
（3）保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 小テスト・課題シート・（50％） 試験（50％）の総合評価							
【準備学習（予習・復習等）】 毎回の授業内容から提示する。 確認は小テスト等で行う。							
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法】 ・小テストは採点し、解説を行う。 ・各時間の授業内で提示された課題シートは、確認後返却する。							
【使用テキスト】 「保育者論」 公益財団法人 児童育成会 監修 中央法規出版							
【参考図書】 「保育所保育指針解説」フレーベル館、「幼稚園教育要領解説」フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館							
【学生へのメッセージ】 ・授業では適時、小テストを行います。 ・準備学習として提示された課題に取り組み、授業後には復習を行うこと。 ・ディスカッションやグループワークなど、積極的な態度で受講してください。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	事前学習: シラバスを熟読し、授業の目的、到達目標について理解する。 学習内容: 保育者の役割(保育士および幼稚園教諭の役割について学ぶ。) 事後学習: 授業内容から提示する。(次回提出)
2	事前学習: 教科書 第2講の概要整理 学習内容: 保育者の倫理(保育者に必要な専門的倫理の内容を学ぶ。) 事後学習: 授業内容から提示する。(次回提出)
3	事前学習: 教科書 第3講の概要整理 学習内容: 保育者の資格と責務(保育という仕事の法的・制度的位置づけを学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
4	事前学習: 教科書 第4講の概要整理 学習内容: 養護と教育(「養護」と「教育」の具体的な内容の理解と保育の実践事例について学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
5	事前学習: 教科書 第5講の概要整理 学習内容: 保育者の資質と能力(保育者の資質や能力とは何か、保育の対象や協働性に求められる要素について学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
6	事前学習: 教科書 第6講の概要整理 学習内容: 専門的な知識・技術・判断(保育者としての専門性と倫理に基づく適切な判断について学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
7	事前学習: 教科書 第7講の概要整理 学習内容: 保育の省察(「省察」の重要性を理解し、職能向上力に必要な資質について学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
8	事前学習: 教科書 第8講の概要整理 学習内容: 保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性(保育の全体的な計画の基礎を学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
9	事前学習: 教科書 第9講の概要整理 学習内容: 保育者の専門性と自己評価(保育評価の種類や観点の基礎について学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
10	事前学習: 教科書 第10講の概要整理 学習内容: 園での協働(職員の協働性や協力体制、職員間の連携の重要性について理解する。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
11	事前学習: 教科書 第11講の概要整理 学習内容: 専門機関との連携(保育現場における専門機関との連携や協働について学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
12	事前学習: 教科書 第12講の概要整理 学習内容: 保護者および地域との協働(地域に開かれた保育支援の具体例について学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
13	事前学習: 教科書 第13講の概要整理 学習内容: 家庭的保育者等との連携(子育て世代のニーズと保育制度について学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
14	事前学習: 教科書 第14講の概要整理 学習内容: 保育者の専門性の発達(保育者としての成長発達段階と「同僚性」の構築について学ぶ。) 事後指導: 授業内容から提示する。(次回提出)
15	事前学習: 教科書 第15講の概要整理 学習内容: 保育者のキャリア形成(保育士の就業状況や様々なライフコースとキャリアについて考える。) 事後指導: 授業内容から提示する。(指定期日までに提出)

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	BO208A1	
授業科目	発達心理学Ⅰ				担当教員	清水 一毅	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	前期	2	30	講義	必修	必修	必修
(授業の目的) 生涯発達の視点から、乳幼児期を中心にして発達過程の知識を身に付け、保育園や幼稚園などの現場で使える気を知識を培う。							
(授業の概要) 保育士や幼稚園教諭に関連の深い乳幼児期に焦点を当てた発達心理学のテキストを使用し、生物的存在でありかつ社会的存在である人間の発達について、生涯発達の視点から包括的に考える。特に乳幼児期の発達については身体的・心理的・社会性・言語の発達及び学習の過程について詳細に学ぶ。また、基礎的な課題として「人としての発達」「家族生活の中で育つ」「近隣社会への広がりの中で育つ」「学校生活の中での学び」「青年期を生きる」「熟年・老年期を生きる」といった心身の発達及び学習の過程についてのキーワードを学び、その支援の在り方について考える。							
(授業の到達目標) ・発達概念を理解し、説明できること。 ・子どもの発達について各期の特徴を理解すること。 ・知性、性格、感情、社会性など心の機能の発達を理解すること。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に付けていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に付けていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 定期試験(80%) レポート提出(20%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習: テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 復習: 配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表し、解説する。							
【使用テキスト】 「保育の心理学」編集: 杉村伸一郎・白川佳子・清水益治 中央法規刊							
【参考図書】 「よくわかる臨床発達心理学(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)」 麻生武・浜田寿美男(編)ミネルヴァ書房							
【学生へのメッセージ】 人間の発達に関する心理学的知識は、保育士や幼稚園教諭の仕事に必要な不可欠です！							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	子どもの発達を理解とその意義
2	保育実践の評価と心理学
3	発達観、子ども観と保育観
4	子どもの発達と環境
5	感情の発達と自我
6	身体的機能と運動機能の発達
7	知覚と認知の発達
8	基本的信頼感の獲得
9	幼児及び児童の学習の過程(特に言葉の発達と社会性)
10	他者とのかかわり(集団のつくり方Ⅰ)
11	社会的相互作用(集団のつくり方Ⅱ)
12	生涯発達と発達援助(主体的学習への動機付け、学習評価)
13	胎児期および新生児期の発達
14	乳幼児期の発達と学習の過程
15	学童期以降の学習の過程

科目区分	専門科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	NT209A2	
授業科目	子ども家庭支援の心理学				担当教員	清水 一毅	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	前期	2	30	講義	選択	—	必修

(授業の目的)

生涯発達に関する基礎的な知識を習得することを通して、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。

子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解する。

(授業の概要)

生涯発達を捉えることにより、子どもを取り巻く周囲環境との関係性を理解し、子どもとその家族を包括的に捉えていく。また、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について学習していく。

(授業の到達目標)

- ・生涯発達に関する基礎的な知識を習得することができる。
- ・親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える事ができる。
- ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解する事ができる。

(卒業認定・学位授与の方針との関連)

ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。	○
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○

【評価方法】

定期試験(60%) 課題提出(40%) 計100%

【準備学習(予習・復習等)】

予習:テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分)

復習:配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)

【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】

課題は、添削のうえ返却する。試験は解答を公表し、解説する。

【使用テキスト】

「子ども家庭支援の心理学」 白川佳子・福丸由佳 編集 中央法規出版

【参考図書】

「保護者のための子育て支援ガイドブック 専門性を活かした保護者へのサポート」 竹田信子著 中央法規出版

【学生へのメッセージ】

授業中は受動的に話を聞くだけでなく、能動的に自分の中で考えながら受講して下さい。

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	乳幼児期から学童期にかけての発達
3	学童期後期から青年期にかけての発達
4	成人期・老年期における発達
5	家族・家庭の意義と機能
6	親子関係・家族関係の理解
7	子育ての経験と親としての育ち
8	子育てを取り巻く社会的状況
9	ライフコースと仕事、子育て
10	多様な家庭とその理解
11	特別な配慮をする家庭
12	子どもの生活・生育環境とその影響
13	子どもの心の健康に関わる問題
14	子ども家庭支援のための社会構造と子どもの理解
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)	科目番号	BO210B1		
授業科目	子どもの理解と援助				担当教員	清水 一毅	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	前期	1	30	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 一般の保育・教育と障害児保育・教育との連続性から、様々な障害についての理解を促し、一人一人発達上の課題に対して特別な保育ニーズと支援を学び、保護者を中心とした支援の内容に関して理解を深める。							
(授業の概要) 幼児理解の理論、考え方及び基礎的態度について理解し、幼児理解の方法について具体的に理解する。							
(授業の到達目標) ・幼稚園や保育所における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学びとその過程において生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができることを目標とする。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 定期試験(60%) 課題提出(40%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習:テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 復習:配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表し、解説する。							
【使用テキスト】 「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」 フレーベル館							
【参考図書】 授業中に適宜配布する。							
【学生へのメッセージ】							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	幼児理解の意義について
2	幼児理解から発達や学びを連続的に捉える原理について
3	幼児理解を深めるための教師の基礎的態度について
4	前回の理解を踏まえて、具体的な事例を基に幼児とのかかわり方を考える。
5	観察と記録の意義や目的について
6	目的に応じた観察法などの基礎について
7	実際の映像資料を見ながら、幼児の様子を観察し記録を取る経験を通して、その意義を学ぶ。
8	個と集団の関係を捉える意義や方法について
9	幼児のつまずきを周りの園児との関係やそのほかの背景から理解する。－事例討論－
10	幼児のつまずきを多面的な方向から考える。
11	幼児の発達の指標を理解するための発達検査について(発達質問紙)
12	保護者の心情理解について－事例検討－
13	保護者へのかかわり方における基礎的な対応方法について
14	保護者同士のつながりへのきっかけ作りなど幼稚園や保育所のできる子育て支援の具体的な方法について
15	幼児の発達を促す態度や声掛けなど教師の役割について話し合い発表する。

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	NT211A2	
授業科目	子どもの保健					担当教員	出口 千絵
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	前期	2	30	講義	選択	—	必修

(授業の目的)

子どもの保健の意義と目的、重要性を理解する。子どもの心身の発育・発達について、個人生活と集団生活の両面からの理解を深め、今日的な健康問題への対応を認識し、これらを子どもの発育・発達を促す教育実践・保育実践に活かそうとする態度を身に着ける。

(授業の概要)

子どもの生命の保持、健康の増進を図ることの意味を認識させ、教育実践・保育実践における保健活動の重要性についての認識を深められる内容とする。総論的な視点から、子どもの発育・発達について解説し、疾病や事故を予防する環境整備とともに、疾病や事故が見られた場合の対応について解説する。(本講義は、看護師の実務家活動を基に行われる。)

(授業の到達目標)

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。

2. 子どもの身体発育・発達と保健について理解する。

3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。

4. 子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

(卒業認定・学位授与の方針との関連)

ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。	○
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。	○
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○

【評価方法】

定期試験(80%) 学習マナー(20%) 計100%

【準備学習(予習・復習等)】

事前:テキストを利用した予習を行い、授業中に質問や発言ができるようにすること。(30分)
事後:配布資料を利用した復習を行い、知識を確実にすること。(30分)

【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】

課題に対して、授業内で解説を行う。

【使用テキスト】

松田博雄、金森三枝編集 『子どもの保健』(中央法規)

【参考図書】

鈴木美枝子編著 『子どもの保健Ⅰ』(創成社)

【学生へのメッセージ】

この授業は子どもの安全と健康を守るための大切な科目です。欠かさず学び、有能な保育者、教育者を目指してください。

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション(講義計画) 子どもの健康と保健活動の意義と目的
2	健康の概念と健康指標 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
3	地域における保健活動と子ども虐待防止
4	身体発育および運動機能の発達と保健
5	生理機能の発達と保健
6	健康状態の観察
7	発育・発達の把握と健康診断
8	保護者との情報共有
9	主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気
10	主な疾病の特徴② 循環器、呼吸器、血液、消化器の病気
11	主な疾病の特徴③ アレルギー、免疫の病気、腎泌尿器、内分泌の病気
12	主な疾病の特徴④ 脳の病気、その他の疾患
13	主な疾病の特徴⑤ 感染症
14	子どもの疾病の予防と適切な対応
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	NT212B2	
授業科目	子どもの食と栄養				担当教員	川村 めぐみ	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	通年	2	60	演習	選択	－	必修
(授業の目的) 子どもの食事と栄養について理解を深め、一人一人の心身の状態や発達過程を踏まえた食育実践を行う能力を身につける。 栄養と食事に関する基本的理解に基づき子どもや家庭への栄養指導や専門機関との連携について理解する。							
(授業の概要) 子どもの健康と食生活の意義を中心に、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達と食生活の関係、食育の重要性とその内容、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養に関する基礎的知識の習得と実践について学ぶ。							
(授業の到達目標) ・食生活の意義や栄養に関する基本的知識について説明できる。 ・子ども発育・発達と食生活の関連について関係づけて理解することが出来る。 ・食育の重要性を踏まえ、保育における指導計画の立案および教材の作成が出来る。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 小テスト,課題(発表を含む),試験 50% 学習への積極的な参加等 50% 総合的に評価する。							
【準備学習(予習・復習)】 事前学習:指定された教科書の項目、及び提示内容について、概要整理を行い授業時に持参する。(30分) 事後学習:授業内容から提示する。提出期限のあるものは期限内に提出。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 適時、小テストを行う(採点・解説を行う)。 課題は、添削のうえ返却する。							
【使用テキスト】 「子どもの食と栄養」公益財団法人児童育成会監修 堤ちはる 藤沢由美子 編集 中央法規出版							
【参考図書】 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省) 保育所保育指針解説 厚生労働省編 平成30年 フレーベル館 その他 授業の中で紹介します。							
【学生へのメッセージ】 子どもと食をめぐる課題に関する文献・新聞記事を読んで課題意識をもって授業に臨んでください。 ボランティア等の食育実践活動に積極的に参加し、具体的な実践を通して理解を深めましょう。 調理実習に関して(費用・衛生面他)はオリエンテーションで詳細を説明いたします。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要	事前学習
1	オリエンテーション「子どもの食と栄養」の学びについて	シラバスの確認
2	子どもの健康と食生活の意義(①子どもの心身の健康と食生活)	教科書第1講-1の概要整理
3	子どもの健康と食生活の意義(②子どもの食生活の現状と課題)	教科書第1講-2の概要整理
4	栄養に関する基本的知識(①栄養の基本)	教科書第2講の概要整理(確認小テスト)
5	栄養に関する基本的知識(②栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能)	教科書第3講の概要整理(確認小テスト)
6	栄養に関する基本的知識(③日本人の食生活の目標)	教科書第4講の概要整理
7	栄養に関する基本的知識(④献立作成・調理の基本)	教科書第5講の概要整理
8	子どもの発育・発達と食生活(①胎児期(妊娠期)の栄養と食生活)	教科書第1講-3の概要整理
9	子どもの発育・発達と食生活(②乳児(授乳)期の栄養と食生活)	教科書第6講の概要整理
10	子どもの発育・発達と食生活(③乳児(離乳)期の栄養と食生活)	教科書第7講の概要整理(確認小テスト)
11	子どもの発育・発達と食生活(④幼児期の栄養と食生活)	教科書第8講の概要整理(確認小テスト)
12	子どもの発育・発達と食生活(⑤学童期・思春期の栄養と食生活)	教科書第9講の概要整理
13	調理に関する基礎知識(離乳食・幼児食)	市販の離乳食・おやつについて(調査)
14	食育に関する課題研究—幼児期における食育実践—	幼児期の食育活動の実践について調べる
15	ここまでの学習の整理とまとめ	ここまでの学習内容の要点整理
16	食育の基本と内容(①保育における食育の意義と基本的考え方)	教科書第10講の概要整理
17	演習:食育活動と教育の関連に関するグループワーク	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を熟読
18	食育の基本と内容(②食育の内容と計画および評価)	教科書第11講の概要整理
19	食育の基本と内容(③食育のための環境)	教科書第11講の概要整理
20	演習:食育指導計画の作成:グループワーク	保育所における食育に関する指針を読む
21	演習:食育事例の研究と教材研究:グループワーク	保育所における食育に関する指針を読む
22	実践事例報告	事例報告書の作成
23	食育の基本と内容(③地域や家庭と連携した食育の展開)	教科書第12講の概要整理
24	演習:保護者への食育の情報提供の方法について考える(1)	子どもの食生活に関する書籍・雑誌調べ
25	演習:保護者への食育の情報提供の方法について考える(2)	子どもの食生活に関する書籍・雑誌調べ
26	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書第13講の概要整理
27	食育と調理	事前配布プリントの熟読
28	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(①疾病および体調不良の子どもへの対応)	教科書第14講の概要整理
29	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(②食物アレルギーのある子どもへの対応)	教科書第15講の概要整理
30	まとめ	

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	BO213A2									
授業科目	保育原理Ⅱ					担当教員	吉田 百加利								
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
2年	集中	2	30	講義	選択	選択必修	選択必修								
(授業の目的) 保育所と家庭、地域との連携、保育所における相談援助活動の基本原理と実践、保育サービスの評価と苦情解決の方法などについて学び、保育士の資質と任務についての理解を深める。															
(授業の概要) 保育に関する基礎的事項をふまえ、より専門的な保育方法について学ぶ。															
(授業の到達目標) ・グループ討議を通して、相談援助活動を含め、保育士の資質と任務について考え、自分の意見を発表する。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td></td></tr><tr><td>(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td></td></tr><tr><td>(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。		(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。		(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。															
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。															
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 課題レポート30% 実習(討論含)10% 学習マナー60% 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 配布プリントより授業内容について確認する。(30分) 事後: 授業内容を振り返り整理する。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。															
【使用テキスト】 必要に応じて資料を提示、配付。															
【参考図書】 「PriPriブックス 新保育所保育指針サポートブック ～保育家庭から指導計画作成まで～」保育総合研究会監修 世界文化社															
【学生へのメッセージ】 集中講義となります。就職を踏まえ、保育士の資質と任務について自分の意見を発表できることを目指します。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	保育の現状
3	保育の課題
4	相談援助活動(1)心構え
5	相談援助活動(2)個別
6	相談援助活動(3)集団
7	相談援助活動(4)地域
8	保育サービスとは(1)個別
9	保育サービスとは(2)集団
10	保育における連携(1)－家庭との連携－
11	保育における連携(2)－他機関との連携－
12	保育士の資質と任務(1)子ども
13	保育士の資質と任務(2)保護者
14	保育士の資質と任務(3)地域
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	BO215B2	
授業科目	小児保健				担当教員	出口 千絵	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	集中	2	30	演習	選択	選択	選択必修
(授業の目的) 子どもの保健での学習をさらに深めて、各施設における保健管理、保健指導の基本と実際について理解し、各施設において児童の保健管理・指導が担えるような能力を培う。また保健所と保健センターにおける保健管理、保健指導の基本と実際を体験的に学び、地域と連携しながら保育実践に活かそうとする態度を身につける。							
(授業の概要) 保育所・乳児院・養護施設・精神薄弱児施設など14種類の施設、および保健所と保健センターにおける児童の保健管理、保健指導について、子どもの保健の学習を踏まえながら、より深く学ぶ。各施設および機関の特徴を理解したうえで、児童の保健管理、保健指導が担えるような技術を身につける。(本講義は、看護師の実務家活動を基に行われる。)							
(授業の到達目標) ・各施設における児童の保健管理の基本が理解できる。 ・衣、食、住の各観点からの環境衛生管理についてわかる。 ・保健管理、保健指導の理論と技術を身につける。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 レポート50% 授業中課題35% 学習マナー15% 計100%							
【準備学習(予習・復習)】 授業で配布された資料を読み、課題を検討し次の授業に備える。(60分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題やレポートは、添削のうえ返却する。							
【使用テキスト】 「保育の中の保健―幼稚園・保育所での保健指導の理論と実践―」巷野悟郎・高橋悦二郎 編 萌文書林							
【参考図書】 なし							
【学生へのメッセージ】 集中講義となります。地域の保健センターで実施する乳幼児健診にボランティア参加し、子どもの発達と保健活動の実際を体験しましょう。発表と討議も予定しています。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要 と 準 備 学 習 (予習・復習等)
1	オリエンテーション(授業計画)
2	施設における児童の保健管理(1)保健管理の基本
3	施設における児童の保健管理(2)保健管理の実際
4	施設における環境衛生管理
5	施設における被服の衛生管理
6	施設における給食の衛生管理
7	保健所、保健センターにおける保健管理
8	乳幼児健診へのボランティア参加(1)乳幼児の保健
9	乳幼児健診へのボランティア参加(2)母子保健
10	乳幼児健診へのボランティア参加(3)保健師の保健指導
11	乳幼児健診へのボランティア参加(4)感想発表と討議
12	保育実習先での保健管理について(1)報告の作成
13	保育実習先での保健管理について(2)発表
14	保育実習先での保健管理について(3)討議
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	NT214A2	
授業科目	発達心理学Ⅱ					担当教員	清水 一毅
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	後期	1	15	講義	選択	－	選択必修
(授業の目的) 青年期の発達や課題についての理解を深める。カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人とのかかわるために必要な力を身につける。							
(授業の概要) “Peer”は「仲間」、「Helper」は「助ける人」であり、ピアヘルパーは直訳すれば仲間を助ける人という意味となる。つまり、職場やボランティア活動の現場において、様々な問題に直面している仲間の手助けをすることがピアヘルパーの活動許容範囲となる。そのようなピアヘルパーの資格取得に向けて、ピアヘルパーの役割や活動内容、意義について学習する。また、さまざまな演習を通してカウンセリングの技法を学ぶことで、よりの確かな手助けができるよう学習を深めていく。							
(授業の到達目標) ・ピアサポートをする上で、知っておくべき基本事項を学習し、さらに応用的な内容についても学習する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。						○	
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。							
【評価方法】 定期試験(70%) 学習マナー(30%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習:テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 復習:配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。							
【使用テキスト】							
【参考図書】 「ピアヘルパー・ハンドブック」 日本教育カウンセラー協会編 図書文化社刊 「ピアヘルパー・ワークブック」 日本教育カウンセラー協会編 図書文化社刊							
【学生へのメッセージ】 ピアヘルパー資格取得のために頑張りましょう。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーションと導入、ピアヘルパーの活動と役割
2	カウンセリング概論①(グループエンカウンター)
3	カウンセリング概論②(カウンセリングの理論)
4	カウンセリングスキル①(カウンセリングの技法)
5	カウンセリングスキル②(ロールプレイ)
6	青年期の課題とピアヘルパーの留意点①
7	青年期の課題とピアヘルパーの留意点②
8	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	KT216A2	
授業科目	教育の方法と技術					担当教員	三井 正人
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	後期	2	30	講義	選択	必修	—
(授業の目的) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を活用し、多様な教育実践を参考にしながら、子どもたちのより良い教育環境について理解する事を目的とする。							
(授業の概要) 次代の子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解するとともに教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける							
(授業の到達目標) ・教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を習得する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 グループによる製作、発表(50%) まとめレポート(50%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習:各グループに分かれての課題をインターネットで調べてまとめる。(30分) 復習:授業での発表後に意見交換の後に見直す。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題発表後は、質疑応答、意見交換を行う。そののち、教員によるアドバイスを参考に発表内容を見直す。							
【使用テキスト】 なし インターネットによる検索							
【参考図書】 インターネット資料/教育の基礎理論							
【学生へのメッセージ】 毎回の授業時に簡単な課題を課しますので、また結果をパワーポイントなどで発表します。積極的な態度で参加をしてください。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	概論 ガイダンス
2	教育方法の基礎的理論と実践を理解
3	教育方法の在り方(主体的・対話的学びの実現など)を理解
4	学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解
5	学習評価の基礎的な考え方を理解
6	話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術の習得
7	基礎的学習指導理論を基に、目標・内容、教材・教具、保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成
8	幼児の体験をもとに情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示インターネット/パワーポイント
9	情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示 グループ実践/製作
10	情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示 グループ実践/製作
11	情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示 グループ実践/製作
12	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解 グループ発表・討議
13	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解 グループ発表・討議
14	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解 グループ発表・討議
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(基礎)		科目番号	KT217A2	
授業科目	教育相談					担当教員	清水 一毅
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	後期	2	30	講義	選択	必修	—
(授業の目的) 幼児教育・保育に有用なカウンセリングの技法を習得する。特にコミュニケーションの特質や問題点について理解し、上手なコミュニケーションのあり方について学ぶ。							
(授業の概要) 本来カウンセリングは「心の専門家」と呼ばれる人が行うが、その基本や技法には保育者にとっても有用なものが含まれている。こうした知識や技術を学び、その習得を目指す。 また、カウンセリングの基礎的な理論および方法の学習を通して、幼児期の子どもの心と保護者の心を理解し、地域との繋がりの中での子育てを支援するための教育相談の方法を実践的に学ぶ。							
(授業の到達目標) ・主にグループワークの演習を通して、コミュニケーションの難しさを知る。 ・日常における自分のコミュニケーションの特徴・欠点を理解し修正する。 ・演習を通して学んだことを日常生活や保育現場において実践し、活用する能力を身につける。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。						○	
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。							
【評価方法】 定期試験(40%) 課題提出(30%) ロールプレイ・討論(30%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習: テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 復習: 配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。							
【使用テキスト】 「子育て支援カウンセリング」 石川洋子著 図書文化							
【参考図書】 「教師・保育者のための教育相談」 大野精一著 萌文書林							
【学生へのメッセージ】 授業を通して、受動的に話を聞くだけでなく、能動的に自分で考えながら受講して下さい。また、グループワークやロールプレイを行う場面が多くあるので積極的に参加しましょう。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要 と 準 備 学 習 (予習・復習等)
1	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の意義と課題
2	教育相談(カウンセリングを含む。)の実際。
3	保育と教育相談(カウンセリングを含む。)の共通点 検討
4	「聞く」と「聴く」の体験的理解
5	聴く姿勢・態度:自分の「癖」を知ろう
6	「話す」ことについて
7	子育て支援(教育相談)に生かすカウンセリング理論1:クライアント中心理論(来談者中心理論)
8	子育て支援(教育相談)に生かすカウンセリング理論2:精神分析療法 意識・無意識について
9	子育て支援(教育相談)に生かすカウンセリング理論3:認知行動療法 スキーマとリフレーミング
10	子育て支援(教育相談)に生かすカウンセリング理論4:交流分析 エゴグラムから見る私
11	子育て支援(教育相談)に生かすカウンセリング理論5:ブリーフセラピー
12	保護者との関わり方を考えよう
13	保護者への支援
14	保育者の行う教育相談の進め方
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO301A1	
授業科目	教育課程・保育の計画と評価					担当教員	清水 健
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	後期	2	30	講義	必修	必修	必修
(授業の目的) 教育・保育課程の意義及び編成の方法を理解するとともに、環境をとおしておこなう教育・保育を基本とする幼児教育における教育・保育課程の役割を明らかにし、幼児の心身の健やかな発達が促される教育・保育課程の編成について学ぶ。							
(授業の概要) 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。							
(授業の到達目標) ・学習指導要領を基に編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 学習マナー40% 定期試験40% 課題レポート20% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却しフィードバックを行う。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 「就学前教育の計画を学ぶ 教育課程・全体的な計画(保育課程)から指導計画へ」村松和子・近藤幹生・柊島香代著 ななみ書房 「平成30年度施行 新要領・新指針サポートブック 全体的な計画の作成から実践まで」保育総合研究会監修 PriPri ブックス							
【参考図書】 「保育課程論 保育の基盤の理解と実習への活用」加藤敏子・岡田耕一編著 萌文書林							
【学生へのメッセージ】 幼稚園や保育所、認定こども園での保育・教育の基礎や、幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷などの原理を学ぶため、毎回の授業終了後、学び得たことをまとめたレポートを提出してもらう予定である。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的理解
2	学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容の社会的背景理解
3	教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解
4	教育課程編成の基本原則を理解 教育目標・教育理念
5	教育課程編成の基本原則を理解 学習計画・月案、週案、日案、細案
6	教育課程編成の基本原則を理解 日案、細案の立案
7	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示 保育者養成課程 観点
8	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示 保育者養成課程カルテ
9	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示 保育者養成課程カルテ
10	長期的・現場実態から、教育課程や指導計画を検討 アンケート調査
11	長期的・現場実態から、教育課程や指導計画を検討 観点の整理
12	長期的・現場の実態から、教育課程や指導計画を検討 PDCAサイクル
13	第三者評価の視点 本学第三者評価内容例示
14	第三者評価の視点 幼稚園、保育所、施設 第三者評価 教育課程の見直し
15	まとめ 学習成果・新学習指導要領

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO302B1									
授業科目	保育内容総論				担当教員	三井 正人									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年	前期	1	30	演習	必修	必修	必修								
(授業の目的) 1. 保育所や幼稚園の保育に関する基本的理解をすすめる。 2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領の基本を学ぶ。 3. 保育課程・教育課程、保育・幼児教育の実践活動について学び、保育が地域と連携した総合性をもつことを知る。															
(授業の概要) 保育所や幼稚園に関する基礎的な理解。保育所指針、教育要領の理解。保育課程、教育課程の理解と実践。保育課題と地域との連携について学習する。															
(授業の到達目標) ・幼稚園教育要領・保育所指針の5領域のねらい、内容、留意事項の理解を基に、児童福祉施設をはじめとするさまざまな施設に対する理解を深め、保育内容に関するさまざまな技術を指導計画として立てる。また保育が直面する課題について総合的に学ぶ。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○														
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 グループ発表(50%) レポート提出(50%) 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 予習: 保育環境における問題意識を持つため、インターネットを通じてすでに学んだ保育環境について再度見直す。また発表に際して時間外にグループで調べた内容をパワーポイントでまとめる。(30分) 復習: 発表後意見交換や教員のアドバイス踏まえ再度発表を見直す。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題発表の後、質疑応答時間を設け、アドバイスをを行う。そののちに再度課題を見直して、提出。															
【使用テキスト】 なし															
【参考図書】 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」その他設置基準など関係法令をインターネットより検索															
【学生へのメッセージ】 保育内容のまとめです。5領域をはじめ、関係法令、子どもをめぐる少子化などの様々な問題をインターネットで検索して調べ、パワーポイントでまとめて発表します。自ら子育ての専門家になるための様々な疑問を話し合える科目にしたいと思います。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	ガイダンス 授業のねらい計画
2	幼稚園・保育園の保育内容 教育要領と保育指針 5領域
3	さまざまな保育の形態 幼稚園 認定子ども園 保育所 児童福祉施設 グループ研究 ①
4	さまざまな保育の形態 幼稚園 認定子ども園 保育所 児童福祉施設 グループ研究 ②
5	さまざまな保育の形態 幼稚園 認定子ども園 保育所 児童福祉施設 グループ研究 ③
6	グループ研究発表 質問・意見交換①
7	グループ研究発表 質問・意見交換②
8	保育技術の理解
9	保育技術の実践
10	保育計画の理解
11	保育の指導法理解
12	保育課題について 少子化高齢化 ① グループ研究・発表
13	保育課題について 家族・子育て ② グループ研究・発表
14	地域との連携
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO303B1	
授業科目	保育内容演習(環境)				担当教員	吉田 百加利	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	前期	1	30	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 保育者として、発達過程に即して子どもを理解することと、総合的に指導・援助が行えるような保育方法の実践的な修得を目指す。							
(授業の概要) 領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、幼児が様々な環境と関わりながら成長を遂げるためにどのような援助を行えばよいのか、子どもの現況を把握し、また、子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用した指導方法を身につけることを目指す。							
(授業の到達目標) ・領域「環境」と他の領域との関連性を理解する。 ・身近な事物や自然と子どものかかわりを援助する指導案を書くことが出来る。 ・教育保育の全体構造の理解に基づいて総合的に指導援助が行えるよう実践的な方法(子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用を含む。)の習得を目指す。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 定期試験(60%) 模擬授業の発表内容(20%) レポート(20%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 子どもと環境 中沢和子著 萌文書林							
【参考図書】 授業中に適宜資料を配布する。 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」							
【学生へのメッセージ】 乳幼児を取り巻く環境についてさまざまな角度から学びます。意欲的に学ぶ姿勢を期待します。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	「環境」のねらい、内容、内容の取扱いへの理解
2	幼児に対する環境教育の指導方法 物を扱う
3	園の実践事例から学ぶ シャボン玉、風車、紙飛行機、虫眼鏡、コマ、磁石、光・影
4	幼児に対する環境教育の指導方法 生物を知る
5	園の実践事例から学ぶ 飼育と栽培、ビオトープ
6	幼児に対する環境教育の指導方法 大きな自然を感じる
7	園の実践事例から学ぶ 野外活動、園外保育
8	幼児に対する環境教育の指導方法 文字や標識
9	幼児に対する環境教育の指導方法 数量や図形
10	園の実践事例から学ぶ 保育室内環境構成
11	安全対策 自然への配慮
12	指導案の書き方、作成
13	指導案にもとづく模擬保育の実践
14	自己評価の作成と評価の生かし方
15	小学校との連携

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO304B1	
授業科目	保育内容演習(健康)				担当教員	井上 聖子	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	前期	1	30	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 乳幼児期は、生涯にわたる心身の健康の基礎を培う重要な時期である。このことを理解するとともに、乳幼児期の心身の発達や発育について学び、健康で安全に過ごせるための援助の仕方について学ぶ事を目的とする。							
(授業の概要) 幼稚園教育要領の中での領域「健康」のねらいや内容について理解した上、幼児が主体的に心身の健康と安全な生活を送るための指導の在り方について考察する。また、子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用した模擬授業を通じて、具体的な指導場面における教師の関わり方や評価の仕方を身に付ける。							
(授業の到達目標) ・領域「健康」のねらいと内容について理解するとともに、その背景にある専門領域との関連性について理解を深める。 ・幼児自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うべき子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用した指導方法や保育を構想する力を身に付ける。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 定期試験(70%) 発表(30%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習: 事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること。(30分) 復習: 授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 「演習 保育内容 健康」 編著者 河邊貴子 発行所 建帛社							
【参考図書】 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」 「保育保健の基礎知識」監修 巷野悟郎 編集 日本保育園保健協議会 日本小児医事出版社 「運動遊び」 編著者 井上 勝子 発行所 建帛社							
【学生へのメッセージ】 生涯の健康の基礎となる乳幼児期の健康について学ぶことは、保育者として養育者として、とても重要なことです。現代の子どもたちの健康に関心をもつとともに、自分自身の健康にも関心を持ち、意欲的に授業に臨んで下さい。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	幼稚園教育要領の基本の理解と領域「健康」のねらいについて
2	領域「健康」の内容について
3	領域「健康」の内容に即した幼児の活動と具体的な指導について ー 基本的生活習慣(食事・排泄・睡眠)
4	領域「健康」の内容に即した幼児の活動と具体的な指導について ー 基本的生活習慣(清潔・衣服の着脱)
5	領域「健康」の内容に即した幼児の活動と指導上の留意点について ー 運動遊び
6	領域「健康」の内容に即した幼児の活動における評価について ー 運動遊び
7	領域「健康」における内容と小学校の教科等の関連性について
8	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構成の重要性について
9	保育を想定した指導案の作成方法につて
10	模擬授業とその振り返り ー 保育構想と改善する視点を身に付けるー 学生発表グループ(1)
11	模擬授業とその振り返り ー 保育構想と改善する視点を身に付けるー 学生発表グループ(2)
12	模擬授業とその振り返り ー 保育構想と改善する視点を身に付けるー 学生発表グループ(3)
13	模擬授業とその振り返り ー 保育構想と改善する視点を身に付けるー 学生発表グループ(4)
14	領域「健康」の特性に応じた現代の課題と保育実践について
15	領域「健康」のまとめー 幼児教育における領域「健康」の在り方

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO305B1	
授業科目	保育内容演習(言葉)				担当教員	小林 柚実子	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	前期	1	30	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 幼児の言葉の発達を理解し、5領域の観点から全体的に子ども理解を深めながら、保育内容について具体的に学ぶ。							
(授業の概要) 子どもの発達の5領域のうち、とくに幼児教育の基本と幼児の言葉について理解する。また、保育の全体構造の理解に基づき、子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用した総合的な指導援助が行えるよう実践的な力を習得させる。							
(授業の到達目標) ・幼児の言葉の発達を理解し、5領域の観点から全体的に子ども理解を深める。 ・保育内容について具体的(子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用を含む。)に学ぶ。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 定期試験(70%) 課題・発表(30%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習:授業計画にしたがってテキストを一読し、内容を把握する。(30分) 復習:学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 コンパス『保育内容 言葉』[第2版] 内藤知美・新井美保子／編著 建帛社							
【参考図書】 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」							
【学生へのメッセージ】 「言葉」の大切さをよく理解し、深く考え、とくにこれから仕事として関わることになる幼児の言葉の発達をしっかりと学んでいきましょう。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	「言葉」とは何か ―言葉について考える―
2	保育における言葉の発達 ―発達段階に応じた言葉の育み方について考える―
3	0歳児の言葉 ―言葉を育むための環境を知る―
4	1歳児の言葉 ―言葉の獲得プロセスを知る―
5	2歳児の言葉 ―「語彙爆発」の時期における適切な対応―
6	3歳児の言葉 ―遊びを通じてのコミュニケーション力と言葉の育て方―
7	4歳児の言葉 ―子どもの言葉の世界を広げるために―
8	5歳児の言葉 ―文学への興味・関心を育てる―
9	領域「言葉」のねらい、内容を理解する
10	気になる子どもへの言葉の発達のサポート
11	日本語を母語としない子どもの言葉の発達を考える
12	言葉の発達を促す児童文化財(3歳児未満)
13	言葉の発達を促す児童文化財(3歳児以降)
14	言葉を育てる指導と指導計画
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO306B1									
授業科目	保育内容演習(人間関係)				担当教員	清水 一毅									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年	後期	1	30	演習	必修	必修	必修								
(授業の目的) 養護と教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。特に、子どもの発達と子どもを取り巻く人間関係との関連性について具体的に学ぶ。															
(授業の概要) 5領域のそれぞれの意義やねらい、内容と領域「人間関係」の関連性について理解する。また子どもの発達と人間関係の知識に基づいて情報機器及び教材を活用した指導や援助が行えるよう実践的な力を習得する。															
(授業の到達目標) ・子どもの発達と人間関係の基礎を理解する。 ・子どもの発達に応じた情報機器及び教材を活用した指導援助の力を身につける。 ・グループワークを通して、新たな視点に気付く。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○														
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 定期試験(70%) 課題提出(30%) 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 予習:テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 復習:配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表し、解説する。															
【使用テキスト】 「演習 保育内容 人間関係」田代和美・村松正幸 編著 建帛社															
【参考図書】 「体験する・調べる・考える 領域人間関係」田宮緑 萌文書林 「事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係」無藤隆 監修 萌文書林 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」															
【学生へのメッセージ】 授業中は受動的に話を聞くだけでなく、能動的に自分の中で考えながら受講して下さい。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション 保育内容とは 領域「人間関係」の意味
2	領域「人間関係」について 人間関係とは何か
3	子どもの人間関係の基礎 愛着関係について
4	乳幼児の発達と人間関係 乳幼児を取り巻く環境
5	幼児の発達と人間関係①(0歳～2歳児) 身近な人との関わりと発達
6	幼児の発達と人間関係②(3歳～4歳児) 仲間との関わりと発達
7	幼児の発達と人間関係③(5歳～就学まで) 遊びと教科教育との繋がり
8	遊びの発達と人間関係① 子どもとの遊びについてインターネットを使い、検索しよう
9	遊びの発達と人間関係② 各年齢に応じた子どもの遊び道具を考えてみよう
10	子どもの育ちを支える保育者同士、保育者と保護者の人間関係
11	特別な支援を必要とする子どもへの援助の工夫
12	指導計画の意義・作成と実践①(0歳～2歳児)指導計画作成のポイント
13	指導計画の意義・作成と実践②(3歳～4歳児)指導計画作成のポイント
14	指導計画の意義・作成と実践③(5歳～6歳児)指導計画作成のポイント
15	幼児教育の現代的課題と領域「人間関係」 現代社会と人との関わり、今日的課題

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO307B1	
授業科目	保育内容演習(表現)				担当教員	田川 智美	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	後期	1	30	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 表現領域の音楽について、意義やねらい、また内容や留意事項について理解させる。保育実践に向けた、子どもの表現の仕方、活動展開、指導方法を学び、子どもの表現についての認識と理解を深める。							
(授業の概要) 領域「表現」の音楽について意義やねらい、また内容や指導上の留意点について理解する。保育実践に向けて、子どもの表現の仕方、活動展開、体験との関連を考慮し、情報機器及び教材を活用した指導法を学び、子どもの表現についての認識と理解を深める。							
(授業の到達目標) ・領域「表現」を理解し様々な表現活動を通して子どもの発達に応じた指導援助と実践力(子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用を含む。)を取得する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 課題提出(70%) 発表(30%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前:各回毎に課題を設定し予習する。(30分) 事後:各回ごとの授業について復習する。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。							
【使用テキスト】 「あそびうた大全集200」永岡書店 「こどものうたベストテン」ドレミ楽譜							
【参考図書】 「保育のうた・こどものうた120」シンコーミュージック 「ダルクローズシステムによる リトミック指導1, 2, 3」全音楽譜出版社 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」							
【学生へのメッセージ】 責任実習に役立つ実践的な学習に取り組めます。音楽で表現する楽しさとその指導法をしっかり学び、積極的に取り組んで下さい。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	子どもの表現の仕方(映像を用いる)の特徴と領域「表現」の特徴について
2	年齢にあった音楽表現について
3	リトミックについての基礎知識 理論と実践 1, 2歳児・・・①
4	リトミックについての基礎知識 理論と実践 3, 4歳児・・・②
5	リトミックについての基礎知識 理論と実践 5歳児・・・③
6	幼児曲の歌唱 楽しく表現しながら歌う指導法について(生活のうた)・・・①
7	幼児曲の歌唱 楽しく表現しながら歌う指導法について(季節のうた)・・・②
8	幼児曲の歌唱 楽しく表現しながら歌う指導法について(行事のうた)・・・③
9	音楽あそび 年齢別の音楽あそびの指導法について
10	手遊び 年齢ごとの手遊びの指導法について 1, 2歳児・3, 4歳児
11	手遊び 年齢ごとの手遊びの指導法について 5歳児
12	リトミック、歌唱、音楽あそび、手遊びを用いた指導案作成
13	作成した指導案の発表と改善点について
14	作成した指導案の発表と改善点について
15	完成させた指導案の提出と領域「表現」のまとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO308B1									
授業科目	保育の表現技術(音楽)				担当教員	田川 智美									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	必修								
(授業の目的) 音楽の基礎的知識を習得すると共に、歌う、聴く、動く、演奏する活動を通し、学生自らが音楽の楽しさを感じ指導する技能を身につけることを目的とする。															
(授業の概要) 保育内容を理解し展開するために、必要な知識や技能を身につけさせる。音楽に関する基本的な技能を身に付け、それらに関する様々な活動を通じて表現する楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得させる。															
(授業の到達目標) ・基礎知識をもとに、幼児曲の伴奏づけなどが出来るようにする。 ・発表する事を通して表現力を高める。 ・指導案をもとに模擬授業をし、意見、感想を発表する。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td></td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。															
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 課題提出50% 実技40% 学習マナー10% 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 事前:各回毎に課題を設定し予習する。(30分) 事後:各回ごとの授業について復習する。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は回答を公表する。															
【使用テキスト】 「楽譜の読み方」新堀芸術学院編 日東書院 「こどもの歌ベストテン」ドレミ楽譜															
【参考図書】 「リトミックであそぼう」全音楽譜、「こどものリトミック」アドグリーン保育実技選書															
【学生へのメッセージ】 音楽の基礎から学習します。基礎力を付けて、音楽の楽しさを学び保育に役立つ実践力を身につけましょう。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	保育における音楽表現活動の意義と役割
3	保育者として必要な音楽知識…① 音の高さを表す
4	保育者として必要な音楽知識…② 音の長さを表す
5	保育者として必要な音楽知識…③ リズムを表す
6	保育者として必要な音楽知識…④ 演奏の順序を表す
7	保育者として必要な音楽知識…⑤ 音のつながりを表す
8	保育者として必要な音楽知識…⑥ 音のつながりを表す
9	保育者として必要な音楽知識…⑦ 音の幅を表す
10	保育者として必要な音楽知識…⑧ 音の調和を表す
11	保育者として必要な音楽技術…① 幼児曲の伴奏部分のアナリゼ・発声法と歌唱法
12	保育者として必要な音楽技術…② 幼児曲の伴奏部分の編曲・発声法と歌唱法
13	保育者として必要な音楽技術…③ 幼児曲を用いての実践演習
14	保育者として必要な音楽技術…④ 幼児曲を用いての実践演習
15	まとめ
16	リズムあそび(4拍子・3拍子・2拍子)…① 身体を使って
17	リズムあそび(4拍子・3拍子・2拍子)…② 実践(グループ)
18	リズムあそび(4拍子・3拍子)…③ 実践・発表
19	リズムあそび…④ 言葉を使って
20	リトミックの知識と実践
21	指揮法(4拍子・3拍子・2拍子)
22	指導案の書き方…音楽指導の指導案
23	指導案の書き方・幼児曲を使って実践する指導案の作成…①
24	指導案の書き方・幼児曲を使って実践する指導案の作成…②
25	模擬授業・作成した指導案をもとに発表…① 意見交換
26	模擬授業・作成した指導案をもとに発表…② 意見交換
27	模擬授業・作成した指導案をもとに発表…③ 意見交換
28	模擬授業・作成した指導案をもとに発表…④ 意見交換
29	模擬授業・作成した指導案をもとに発表…⑤ 意見交換
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO309B1									
授業科目	保育の表現技術(造形)				担当教員	三井 正人									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	必修								
(授業の目的) この科目は、幼稚園教諭の中では教科教育、保育士養成においても基礎技能と位置付けがなされている。幼児教育の現場では、絵を描いたり、造形を楽しむことが活動の大きな部分を占める。子どもたちの遊びの体験は、認知活動や自己表現の、基礎を作っている。造形指導の意味を理解し、造形教育の方法を研究する。															
(授業の概要) 造形に対する基礎的な知識や技能を身につけるとともに、保育内容を理解し、展開するために必要な知識や技術を修得する。また実際の活動を体験学習し、造形の楽しさや喜びを知る。															
(授業の到達目標) ・教材研究の理解 ・基礎知識の理解 ・造形指導方法の理解															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td></td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。															
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 前期:授業への取り組み20% グループごとの平面教材の研究発表80% 後期:授業への取り組み20% 夏休み課題20% 大型紙芝居30% ペーパー試験30% 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 予習:教材研究、指導案作成・模擬授業発表の準備(30分) 復習:模擬授業での指導案を基にした発表の添削(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 フィードバック:指導案の添削 全体での反省、課題点の修正															
【使用テキスト】 特になし															
【参考図書】 「四季を楽しむおりがみいっぱい」坂田英昭 日東書院															
【学生へのメッセージ】 造形の面白さ、楽しさを再発見してください。課題は全て提出してください。 各授業での時間外課題については、夏季・冬季休暇中の課題および指導案発表の準備にあてるものとする。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	授業の目的、内容の説明 教科書、必要教材の購入、配布
2	教科書を通じて幼児の造形活動、造形指導の理解、教育要領、保育指針の表現領域の理解 クロッキー
3	幼児の造形活動の基礎的理論の修得 子どもの絵の発達 描画教材 絵を描く①(基礎的描画材料の理解)
4	幼児の造形活動の基礎的理論の修得 子どもの絵の発達 描画教材 絵を描く②(基礎的描画材料の理解)
5	幼児の造形活動の基礎的理論の修得 子どもの絵の発達 描画教材 デカルコマニー、マスキング、クロッキー
6	幼児の造形活動の基礎的理論の修得 教育要領 表現版画・描画教材 スタンピング ドリッピング クロッキー
7	幼児の造形活動の基礎的理論の修得 保育所指針表現 版画・描画教材 紙版画 にじみ 折り紙
8	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 導入版画・描画教材 マーブルング、クロッキー
9	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 環境構成 版画・描画教材 マスキング フロッタージュ 折り紙
10	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 展開 版画・描画教材 コラージュ クロッキー
11	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 図解説 版画・描画教材 スチレン版画 折り紙
12	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 指導 描画教材 スクラッチ クロッキー
13	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 指導 造形教材 スライム 折り紙
14	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 指導 造形教材 紙粘土 クロッキー
15	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 まとめ 夏季休暇中課題説明(指導案1、工作5)
16	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 全体造形教材①
17	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 全体造形教材②
18	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 全体造形教材③
19	夏季休暇中課題(指導案1、工作5) クラス発表 質疑・応答①
20	夏季休暇中課題(指導案1、工作5) クラス発表 質疑・応答②
21	夏季休暇中課題(指導案1、工作5) クラス発表 質疑・応答③
22	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 全体造形教材 釣り・グループで遊ぶ
23	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 全体造形教材 自由課題・グループで遊ぶ
24	造形活動の基礎的理論の修得 指導案の書き方 全体造形教材 自由課題・グループで作って遊ぶ
25	大型紙芝居 説明 作り方・留意事項 オリジナルストーリー
26	大型紙芝居 コマわけ
27	大型紙芝居 製作
28	大型紙芝居 完成 クラス発表(読み方)
29	大型紙芝居 クラス発表(読み方)
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)	科目番号	BO310B1		
授業科目	保育の表現技術(体育)				担当教員	井上 聖子	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 学生自らが、身体を動かすことの楽しさを知り、それぞれの運動遊びが持つ特性を理解する。また指導者として、様々な運動遊びに子どもたちが積極的に取り組めるよう指導計画を立て、指導と援助の具体的な方法、安全管理についても習得することを目的とする。							
(授業の概要) 乳幼児期は、神経系の発達が著しく、その後の運動やスポーツに必要な基本的な運動を獲得する時期である。しかし、現在では身体を動かさない遊びへと変容し、自然に動きを獲得することが難しくなっている。このことを踏まえ、身体運動に関する基本的な知識や技能を身につけるとともに、運動遊びを実践することにより、そのねらいや展開方法、および指導法を学ぶ。また、安全管理についても学ぶ。							
(授業の到達目標) ・様々な運動遊びを経験することにより、運動遊びの楽しさを体感する。 ・運動遊びをする上での安全面の配慮について学ぶ。 ・指導者としてねらいを定め、どのような内容がふさわしいのか、実際に指導計画を立て、指導の展開、環境づくりについて実践し、検討する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 授業への取り組み50% レポート50% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習: 単元ごとの内容について、その特性について理解してくること。 模擬授業と評価では、運動遊びの種類ごとに遊びの展開の仕方を検討してくること。(30分) 復習: 単元ごとの内容について、年齢別にできる運動遊びと保育者の留意点、授業で学んだことをまとめ提出すること。 模擬授業では、その評価を検討し、提出すること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。							
【使用テキスト】 「すこやかな子どもの心と体を育む 改訂 運動遊び」 井上勝子・高原和子編著 建帛社							
【参考図書】 「発達にあわせてすぐ使える楽しい幼児の運動遊び」 馬場桂一郎著 明治図書							
【学生へのメッセージ】 保育での運動遊びの重要性を認識し、運動が苦手な学生も、身体を動かすことの楽しさを体感して下さい。実技を行いますので、運動ができる服装と体育館履きを用意して下さい。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	「輪」を使った運動遊び－身体運動に関する基本的な知識と技能・安全管理
3	「ボール」を使った運動遊び(1)－身体運動に関する基本的な知識と技能・安全管理
4	「ボール」を使った運動遊び(2)－身体運動に関する基本的な知識と技能・安全管理
5	「縄」を使った運動遊び－身体運動に関する基本的な知識と技能・安全管理
6	「縄」を使った運動遊び－身体運動に関する基本的な知識と技能・安全管理
7	「鬼ごっこあそび」を使った運動遊び－身体運動に関する基本的な知識と技能・安全管理
8	「鬼ごっこあそび」－身体運動に関する基本的な知識と技能・安全管理
9	「表現あそび」基本的な動き－保育実践において必要な知識や技能(1)
10	「表現あそび」基本的な動き－保育実践において必要な知識や技能(2)
11	「表現あそび」基本的な動き－保育実践において必要な知識や技能(3)
12	「表現あそび」基本的な動き－保育実践において必要な知識や技能(4)
13	「表現あそび」基本的な動き－保育実践において必要な知識や技能(5)
14	「表現あそび」基本的な動き－保育実践において必要な知識や技能(6)
15	発表会
16	「新聞紙」を使った運動遊び－身体運動に関する基本的な知識と技能・安全管理
17	「跳び箱」「マット」を使った運動遊び－身体運動に関する基本的な知識と技能・安全管理
18	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(7)
19	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(8)
20	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(9)
21	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(10)
22	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(11)
23	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(12)
24	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(13)
25	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(14)
26	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(15)
27	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(16)
28	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(17)
29	模擬授業と評価－保育実践において必要な知識や技能(18)
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO311B1									
授業科目	保育の表現技術(国語)				担当教員	小林 柚実子									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	必修								
(授業の目的) ・基本的な「国語」の知識、技術(敬語、文章表現等)を復習、確認する。 ・保育者として大切な国語力および教養を、実践的な学習を通して身につける。															
(授業の概要) IT機器が急速に利便性を増す現代にあって、私たちの「読む・書く・聞く・話す」といった国語の力を維持、向上させるには、これまで以上に高い意識をもって努力することが必要になっている。国語力は、物事を理解し、思考を深めるための最も基本的な能力の一つであり、人間関係を築く上でも重要な力である。本講義では、大学教育および今後の社会生活に資する国語力の向上、またとくに保育学生として身につけておきたい国語の知識や教養を、実践的な学習を通じて高めたい。															
(授業の到達目標) ・幼児教育者として必要な国語力を獲得する。 ・常識的、基礎的な知識を学ぶ。 ・さまざまな場面に応じた文章表現について学ぶ。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○														
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 定期試験(70%) 課題・発表(30%) 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 予習:授業計画に準じ、テキストの演習問題等に取り組む。 グループワークの際には、話し合って事前準備に取り組む。(30分) 復習:国語の表現技術については、補充プリントを配布するので、復習によってしっかりと知識を定着させる。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 ・提出物等については、確認、添削のうえ返却する。 ・試験は、解答を公表する。															
【使用テキスト】 「保育の基本用語」 長嶋和代編 わかば社															
【参考図書】 「幸せを運ぶ絵本&児童書300冊 日経Kids+別冊」 日経キッズプラス 日経BP社															
【学生へのメッセージ】 幼児教育に携わると文章表現の機会はますます多くなります。子ども、保護者、同僚との伝達がうまくいくように努力しましょう。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	敬語の基礎Ⅰ（テキスト:chapter3）
2	敬語の基礎Ⅱ・Ⅲ（テキスト:chapter3）
3	敬語の応用（テキスト:chapter4）
4	敬語の応用（プリント）
5	「敬語を使った会話」実践（ロールプレイング）
6	履歴書の書き方（テキスト:chapter8）
7	履歴書を書く（作成して提出）
8	手紙の書き方Ⅰ～Ⅴ（テキスト:chapter5）
9	手紙の書き方Ⅵ～Ⅷ（テキスト:chapter5）
10	手紙を書く（作成して提出）
11	保護者宛連絡文書の書き方（テキスト:chapter6）
12	保護者宛連絡文書を書く（作成して提出）
13	メールでのマナー（テキスト:chapter9）
14	レポートの書き方
15	まとめ
16	文の書き方Ⅰ（テキスト:chapter7）
17	文の書き方Ⅱ（プリント）
18	文の書き方Ⅲ（プリント）
19	実習日誌の書き方（テキスト:chapter1）
20	部分指導案の書き方（テキスト:chapter2）
21	ディスカッションⅠ（テーマを設定し、グループごとに話し合い、発表する）
22	ディスカッションⅡ（テーマを設定し、グループごとに話し合い、発表する）
23	ディスカッションⅢ（テーマを設定し、グループごとに話し合い、発表する）
24	「子ども向けの文学の世界」について
25	紙芝居を読むⅠ 実践
26	紙芝居を読むⅡ 実践
27	絵本を読むⅠ 実践
28	絵本を読むⅡ 実践
29	「言葉・文学が広げてくれる世界の可能性」について
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	NT312A2	
授業科目	乳児保育Ⅰ				担当教員	川村 めぐみ	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	後期	2	30	講義	選択	－	必修
(授業の目的) 近年の国内外の実践や研究の結果、子どもの人生の出発点である乳児期における経験の質の重要性が見直されている中で、乳幼児の現状と課題や3歳未満児の発育および発達を踏まえた保育について基本的な知識を理解する事を目的とする。							
(授業の概要) ①乳児保育の意義・目的と役割について ②乳児保育の現状と課題 ③3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 ④乳児保育における連携・協働について基礎的事柄を理解する。							
(授業の到達目標) ・「乳児保育」の意義と役割などについて理解出来た。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育とその運営について理解出来た。 ・「乳児保育」における連携・協働について理解出来た。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 授業の取り組み・レポート 50％ 定期試験 50％							
【準備学習(予習・復習等)】 事前:毎時間ごとに授業内で出されたテーマにつき、教科書・参考書に基づき、調べてくる。(60分) 事後:配布事後:授業内容を踏まえ、各自が疑問に感じた事を、発展させレジュメにまとめる。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 授業中の課題レポートについては、添削し、返却する。 課題、レポート、定期試験の結果を総合的に評価する。							
【使用テキスト】 講義で学ぶ 乳児保育 小山朝子 編 わかば社							
【参考図書】 発達のサインが見えるともっと楽しい 0.1.2さい児の遊びとくらし 鈴木八朗 編著 汐見稔幸 監修 メイト 40のサインでわかる乳幼児の発達―0.1.2歳児が生活面で自立する保育の進め方― くらき永田保育園監修 鈴木八朗 著 黎明書房							
【学生へのメッセージ】 身近な「赤ちゃん」を観察し、子どもについての理解を深めましょう。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	事前学習 ・シラバスを熟読し、授業の目的、到達目標にういて理解する。
	学習内容 ・乳児保育の目的と役割について。
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
2	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児保育の基本(乳児保育の歴史的変遷や、現状と課題について)
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
3	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・0.1.2歳児の発達
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
4	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・0歳児の保育内容(乳児保育に関わるねらいと内容について)
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
5	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・1歳以上3歳未満児の保育内容
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
6	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児の生活と遊びの基本(乳児保育における保育者の役割、健康や安全、防災対策について)
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
7	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児の生活の基本(食事、睡眠、排せつ、着脱、清潔について)
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
8	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児の遊び(0.1.2歳児の遊びとおもちゃ)
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
9	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児の遊び(0.1.2歳児の遊びとおもちゃ)
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
10	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児保育の環境構成
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
11	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児保育における全体的な計画
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
12	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児保育における子育て支援
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
13	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児保育における連携(職員間・家庭・地域)
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
14	事前学習 ・教科書を読み、概要を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 ・乳児保育の重要性と、保育者としての専門性。
	事後学習 ・授業内容から提示する。(次回提出)
15	事前学習 ・ここまでの学びと自己課題を整理し、授業時に持参する。
	学習内容 学習の整理とまとめ
	事後学習 ・授業内容から提示する。(指定日に提出)

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	NT313B2	
授業科目	乳児保育Ⅱ				担当教員	川村 めぐみ	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	前期	1	30	演習	選択	－	必修
(授業の目的) 近年の国内外の実践や研究の結果、子どもの人生の出発点である乳児期における経験の質の重要性が見直されている。 乳児保育Ⅰでの学びを踏まえ、保育の方法や環境について具体的に理解する。							
(授業の概要) ①乳児保育の基本 ②乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びについて ③乳児保育における配慮の実践 ④乳児保育における計画の実践 を理解し具体的な指導計画を立案する。							
(授業の到達目標) ・「乳児保育」の養護と教育の一体性を踏まえた保育の方法や環境について具体的に理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助やかかわりについて理解する。 ・「乳児保育」における計画の作成について具体的に理解する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 授業の取り組み・レポート 50% 定期試験 50%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前:テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 事後:配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 授業中の課題レポートについては、添削し、返却する。 課題、レポート、定期試験の結果を総合的に評価する。							
【使用テキスト】 新時代の保育双書 乳児保育「第3版」 大橋喜美子 編 みらい 保育所保育指針解説 厚生労働省編 平成30年 フレーベル館							
【参考図書】 発達のサインが見えるともっと楽しい 0.1.2さい児の遊びとくらし 鈴木八朗 編著 汐見稔幸 監修 メイト 40のサインでわかる乳幼児の発達—0.1.2歳児が生活面で自立する保育の進め方— くらき永田保育園監修 鈴木八朗 著 黎明書房							
【学生へのメッセージ】 保育実習での観察・体験を授業にいかし、具体的な指導計画が立案できる力をつけましょう。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	ガイダンス 子どもと保育者の関係の重要性について
2	人への信頼を育む保育環境
3	子どもの主体性を育む保育環境
4	個々の子どもに応じた援助—受容的・応答的なかわりとは—
5	乳児期の全体的な計画—「養護」「遊び」に関わるねらいと内容
6	乳児期の指導計画—デイリープログラムと保育環境
7	乳児期の指導計画—遊びと保育環境
8	子どもの観察と記録 —生活と援助の実際から学ぶ—
9	家庭との連携と協働
10	乳児期の児童文化と遊び
11	乳児のための児童文化財の製作と遊びの実践①
12	乳児のための児童文化財の製作と遊びの実践②
13	乳児のための児童文化財の製作と遊びの実践③
14	地域における子育て支援
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	NT314B2									
授業科目	子どもの健康と安全					担当教員	出口 千絵								
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年	後期	1	30	演習	選択	－	必修								
(授業の目的) 子どもの保健管理、保健指導の基本と実際について理解し、さらに技術を習得して、教育・保育現場において子どもの保健管理・指導が担えるような能力を培う。また保健活動を体験的に学び、地域と連携しながら教育実践・保育実践に活かそうとする態度を身につける。															
(授業の概要) 教育・保育現場における子どもの保健管理、保健指導について、子どもの保健の学習内容を踏まえながら、より深く具体的に理解させる授業内容とする。子どもの健康と安全に関する計画、活動の実際を体験的に学習したうえで、子どもの保健管理、保健指導の技術を身につけさせる。(本演習は、看護師の実務家活動を基に行われる。)															
(授業の到達目標) 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する 2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する 4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について具体的に理解する 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する 6. 子どもの健康及び安全の管理の関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。	○	(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。	○														
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。	○														
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 定期テスト(50%) 学習マナー(50%) 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 事前:テキストを利用した予習を行い、授業中に質問や発言ができるようにすること。(30分) 事後:配布資料を利用した復習を行い、知識を確実にすること。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題に対して、授業内で解説を行う。															
【使用テキスト】 鈴木美枝子編者『子どもの保健Ⅰ』(創成社)															
【参考図書】 松田博雄、金森美恵編集『子どもの健康と安全』(中央法規) 榊原洋一監修 小林美由紀執筆 『子どもの保健演習ノート』(診断と治療社)															
【学生へのメッセージ】 保健活動の実際を体験的に学びます。実際の保育ですぐに活用できる技術を身につけることを目指して積極的に取り組みましょう。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション(授業計画) 子どもの健康と保育の環境・保育における保健的対応の基本的な考え方
2	子どもの発達援助と養護技術(1)乳児の抱き方背負い方
3	子どもの発達援助と養護技術(2)排泄のさせ方
4	子どもの発達援助と養護技術(3)沐浴と衣服の着脱
5	子どもの健康と保育の環境(1)子どもの健康増進と環境
6	子どもの健康と保育の環境(2)子どもの生活習慣と環境
7	子どもの健康と保育の環境(3)子どもの発達援助と環境
8	保育における健康および安全の管理 ①衛生管理②事故防止および安全対策③危機管理④災害への備え
9	子どもの体調不良等に対する適切な対応(1)体調不良や傷害が発生した場合の対応
10	子どもの体調不良等に対する適切な対応(2)応急処置・救急蘇生法
11	感染症対策(1)感染症の集団発生の予防
12	感染症対策(2)感染症発生時と罹患後の対応
13	個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患・アレルギー性疾患等)
14	障害のある子どもへの対応
15	保育における保健活動の計画・評価 家庭・専門機関・地域の関係機関等との連携

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO315B1	
授業科目	特別支援教育論				担当教員	清水 健	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 一般の保育・教育と障害児保育・教育との連続性から、様々な障害についての理解を促し、一人一人発達上の課題に対して特別な保育ニーズと支援を学び、保護者を中心とした支援の内容に関して理解を深める。							
(授業の概要) 特別な支援を必要とする幼児への保育について、理念や歴史的変遷について学び、特別な支援を必要とする幼児及びその保育について理解する。また、様々な障害や教育的ニーズについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成、障害のある子どもや特別な教育的ニーズのある子どもの保育の計画等についての学びを通して個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。							
(授業の到達目標) ・特別な支援を必要とする幼児への保育についての理念や歴史的変遷、様々な障害について理解する。 ・特別な支援を必要とする幼児の理解や援助の方法、保育の計画等、個別支援について理解する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 レポート試験(30%) 演習課題(30%) 演習発表(40%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 演習課題については、演習発表時に解説を通してフィードバックする。試験については、解説を公表する。							
【使用テキスト】 「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」前田泰弘編著 萌文書林							
【参考図書】 「保育者のための障害児保育－理解と実践」尾野明美編著 萌文書林 「キーワードで学ぶ障害児保育入門」七木田敦編著 保育出版社							
【学生へのメッセージ】 演習課題・演習発表での取り組みが重要であることを理解し、必要な準備を怠らないよう留意すること。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	障害の捉え方(1)ーノーマライゼーションとICFー
2	障害の捉え方(2)ー障害の捉え方と支援ー
3	障害児保育・教育の歴史的視点(1)ー障害観と処遇の歴史ー
4	障害児保育・教育の歴史的視点(2)ー障害児保育の歴史ー
5	障害児の発達とアセスメント(1)ー心身の発達と障害児の発達特徴ー
6	障害児の発達とアセスメント(2)ーアセスメントの理解ー
7	保育・療育機関などにおける障害児保育の展開ー就学前の保育の場・障害児保育の形態と実践ー
8	小学校・中学校などによる特別支援教育の展開ー小学校・中学校・高等学校における特別支援教育の意義ー
9	特別支援学校における特別支援教育の展開ー特別支援学校の理解と「自立活動」の内容と理解ー
10	個別の教育支援計画等、保育の計画作成と実施ー「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の理解ー
11	障害の理解と保育における発達の援助①ー視覚障害の理解ー
12	障害の理解と保育における発達の援助②ー保育における視覚障害児への援助ー
13	障害の理解と保育における発達の援助③ー聴覚障害の理解ー
14	障害の理解と保育における発達の援助④ー保育における聴覚障害児への援助ー
15	障害の理解と保育における発達の援助⑤ー肢体不自由の理解ー
16	障害の理解と保育における発達の援助⑥ー保育における肢体不自由児への援助ー
17	障害の理解と保育における発達の援助⑦ー知的障害の理解ー
18	障害の理解と保育における発達の援助⑧ー保育における知的障害児への援助ー
19	障害の理解と保育における発達の援助⑨ー自閉症スペクトラム障害の理解ー
20	障害の理解と保育における発達の援助⑩ー保育における自閉症スペクトラム障害児への援助ー
21	障害の理解と保育における発達の援助⑪ー注意欠陥・多動性障害の理解ー
22	障害の理解と保育における発達の援助⑫ー保育における注意欠陥・多動性障害児への援助ー
23	障害の理解と保育における発達の援助⑬ー学習障害の理解ー
24	障害の理解と保育における発達の援助⑭ー保育における学習障害児への援助ー
25	さまざまな障害の理解と個別的配慮ーその他特別な支援を必要とする幼児の理解ー
26	個々の保育・教育ニーズに応じた支援①ーあそびの援助ー
27	個々の保育・教育ニーズに応じた支援②ー対人関係の援助ー
28	個々の保育・教育ニーズに応じた支援③ー生活動作に関する具体的な保育技術ー
29	家庭への支援ー家庭との協力、支援の場の広がりにつながりー
30	まとめー授業の到達目標を踏まえた演習の振り返りー

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	NT316B2	
授業科目	社会的養護Ⅱ				担当教員	福田 光弘	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	後期	1	30	演習	選択	－	必修
(授業の目的) 1. 社会的養護における児童の権利擁護や支援者としての倫理を理解する。 2. 施設ごとの支援の内容を検討する中で、支援内容を具体的に学ぶ。 3. 社会的養護にかかわる支援の技法について理解する。							
(授業の概要) 社会的擁護を通して社会福祉や家庭支援などについての見識を深めるとともに、児童の権利や職員としての倫理を学ぶ。また、一人ひとりの児童に応じた個別支援計画や実際の支援内容についても学ぶ。さらに、社会的養護にかかわるソーシャルワークの技法について理解する。							
(授業の到達目標) ・1年次の「社会的養護Ⅰ」で学んだ知識をさらに深める。 ・社会的養護の現状について理解する。 ・家庭養護の現状について理解する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 定期試験(80%)、学習マナー(20%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前:テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う。(30分) 事後:配布プリントなどにより、授業内容について確認する。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 定期試験について、試験後解説を行う。							
【使用テキスト】 授業内で指定する。							
【参考図書】 『社会的養護Ⅰ・Ⅱ』 谷口純世・加藤洋子・志濃原阿美 編著 光生館							
【学生へのメッセージ】 授業時には必ず、教科書と既に配布したプリントを持参すること。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	社会的養護における子どもの理解
2	日常生活支援とは何か
3	治療的支援とは何か
4	自立支援とは何か
5	社会的養護の実例Ⅰ（児童養護施設・乳児院）
6	社会的養護の実例Ⅱ（児童自立支援施設・児童心理治療施設）
7	社会的養護の実例Ⅲ（母子生活支援施設・障害児施設）
8	社会的養護の実例Ⅳ（家庭養護）
9	アセスメントと自立支援計画の作成
10	社会的養護における記録
11	社会的養護における自己評価
12	保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践
13	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践
14	社会的養護における家庭支援
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	NT317B2	
授業科目	子育て支援				担当教員	吉田 百加利	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	後期	1	30	演習	選択	－	必修
(授業の目的) 現代社会において地域の子育て支援が必要とされる背景を理解し、子育てを支援するための政策・制度及び具体的な地域活動の現状と問題点について学ぶ。							
(授業の概要) 保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。							
(授業の到達目標) ・現代社会における子育ての現状と課題、子育て支援の意義と必要性を理解する。(30分) ・支援者の役割を理解し、支援に求められる知識と技術を修得する。(30分)							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 課題・発表(反省点や展開の工夫、実践発表)50% 学習マナー(練習)50% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 日頃から子育てに関するニュースや新聞記事などに留意し、情報収集や資料整理に努める。(30分) 事後: 授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図ること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。							
【使用テキスト】 必要に応じて資料を提示、配布							
【参考図書】 「・・・育つ・つながる・・・子育て支援 具体的な技術・態度を身につける32のリスト」 子育て支援コンピテンシー研究会／編著 チャイルド本社							
【学生へのメッセージ】 自分の住んでいる地域の子育て支援に興味を持ちましょう。また、子育て支援現場のボランティアに参加して、保護者との交流等を通して様々な視点から子育てについて考える機会を持ちましょう。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション（授業内容の説明）
2	子育て支援とは
3	妊娠・出産・乳幼児期・小学生期の支援①
4	妊娠・出産・乳幼児期・小学生期の支援②
5	幼稚園による子育て支援
6	保育園による子育て支援
7	児童館・保健センターによる子育て支援
8	NPO の取り組み
9	地域の子育て支援の現状①—育児不安の原因と対応
10	地域の子育て支援の現状②—母親以外の育児参加
11	保育相談支援の意義
12	保育相談支援の基本
13	保育相談支援の実践
14	世界の子育て支援を知る
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO318A2	
授業科目	美術表現				担当教員	三井 正人	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	後期	2	30	講義	選択	選択	選択必修
(授業の目的) 1年時基礎造形で学習した教材研究や指導案、模擬授業の学習を基礎に、より実践的、専門的なスキルアップを目指す。また美術の楽しさを知り、造形教育指導の視野を広げるため、教育・保育・ボランティアなどの現場で実際に子どもたちに指導を行い、問題点を洗い出し、本番の教育・保育実習での実践につなげられるようにする。							
(授業の概要) 幼児が楽しみながらおこなえる造形遊びを研究しながら、基礎造形で学習した幼児の発達状況、基礎的な教育理論を再確認する。また指導案を作成するとともに、実践的な模擬授業を通して造形遊びの具体的な環境構成や教材研究を学習する。また美術館等での校外授業を行い、美術表現を広い視野で捉える。							
(授業の到達目標) ・1年時基礎造形で学習した教材研究や指導案、模擬授業の学習を基礎に、より実践的、専門的なスキルアップを目指す。また美術の楽しさを知り、造形教育指導の視野を広げるため、教育・保育・ボランティアなどの現場で実際に子どもたちに指導を行い、問題点を洗い出し、本番の教育・保育実習での実践につなげられるようにする。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 指導計画案作成・提出(50%)実践発表(50%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習:子どもとの製作・発表に備え、準備を行う。(30分) 復習:実践後反省し計画を見直す。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題発表後は、意見交換し、教員のアドバイスを参考に発表を見直す。							
【使用テキスト】 「幼児教育法講座 造形表現理論編、実技編」花篤 實著 三晃書房							
【参考図書】 「四季を楽しむ おりがみいっぱい」坂田英昭 日東書院 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」その他インターネットによる検索							
【学生へのメッセージ】 1年時の保育の表現技術(造形)をもとに、講義科目ではありますが、実践的な授業になります。 学外発表、学外授業については、現地までの移動や美術館入館料などの実費がかかります。							

授 業 計 画

1	オリエンテーション ①授業の目的と内容の説明 ②課題説明
2	幼児の造形活動A 幼児に造形遊びを教授するにあたって ①身体発達と造形遊び ②言語発達と造形遊び
3	③導入・展開 ④実習における指導案でのポイント
4	⑤言葉かけ・指導 ⑥展開・まとめ
5	幼児の造形活動B 5～6名のグループにわかれて立体教材の指導研究及び指導案作成・模擬授業の実施、反省 ①教材研究 魚釣りゲーム、ルール・発展
6	②教材研究 グループごとに計画 展示・発展 ゲーム
7	③教材研究 グループごとに展示・発展
8	④教材研究 グループごとに 展示・発展
9	⑤教材研究 グループごとを使って遊ぶ 集団、遊び、ルール・展開
10	絵本・造形関係の美術館を巡り造形表現・教材の研究し、子どもたちとの美術体験ボランティアに参加、体験レポートを作成する。 ①子どもと造形活動 計画 美術館めぐり
11	②子どもと造形活動 製作
12	③子どもと造形活動 発表
13	④子どもと造形活動 反省
14	幼児の造形遊び・指導のまとめ 幼稚園にて発表した指導研究及び指導案作成・模擬授業の反省
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO319A2	
授業科目	音楽表現					担当教員	田川 智美
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	前期	2	30	講義	選択	選択	選択必修
(授業の目的) 音楽の基礎知識をもとに、更に幼児教材を用いて展開するための知識や技能を習得することを目的とする。また、その活動を通して、音楽の楽しさや美しさを表現する喜びを体験すると共に、幼児への音楽指導法を学び実践力とする。							
(授業の概要) 理論より感覚を重視する幼児の音楽指導では、保育者自信の音楽に対する態度や姿勢が問われることを認識し、音楽を通して様々な表現をすることを身に付ける。							
(授業の到達目標) ・音楽の基礎知識をもとに、更に幼児教材を用いて展開するための知識や技能を習得することを目的とする。また、その活動を通して、音楽の楽しさや美しさを表現する喜びを体験すると共に、幼児への音楽指導法を学び実践力とする。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 実技(80%) 課題作成(20%) 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 予習: 予めテキストを読んでおく。(30分) 復習: 復習によってしっかりと知識を定着させる。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却する。							
【使用テキスト】 「あそびうた大全集200」永岡書店 細田淳子編著 「こどものうたベストテン」ドレミ楽譜							
【参考図書】 「ダルクローズシステムによる リトミック指導1, 2, 3」全音楽譜出版社 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」							
【学生へのメッセージ】 責任実習に役立つ実践的な学習に取り組めます。音楽で表現する楽しさとその指導法をしっかり学び、積極的に取り組んで下さい。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション 幼児の音楽的発達について
2	リズムについての基礎知識
3	1、2歳児のリズムの理論と実践①
4	1、2歳児のリズムの理論と実践②
5	3、4歳児のリズムの理論と実践①
6	3、4歳児のリズムの理論と実践②
7	5才児のリズムの理論と実践①
8	5才児のリズムの理論と実践②
9	リズムを題材とした指導案の作成①
10	リズムを題材とした指導案の作成②
11	作成した指導案による模擬授業①
12	作成した指導案による模擬授業②
13	作成した指導案による模擬授業③
14	作成した指導案による模擬授業④
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO320B1									
授業科目	保育技術研究Ⅰ				担当教員	三井正人									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	必修								
(授業の目的) 保育所指針、教育要領、発達の様子を踏まえて保育実践のための特に表現領域の造形製作(平面・立体造形)における教材開発の能力と技術を身につける。															
(授業の概要) 子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。															
(授業の到達目標) 人形劇(15分程度の)マリオネットの人形製作、舞台製作、発表															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。</td><td></td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。</td><td></td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td></td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。		(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。															
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。															
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。															
【評価方法】 製作状況の評価。発表時の積極性。(100%)															
【準備学習(予習・復習等)】 予習:人形作り、舞台づくりは授業では作り方の検討。授業外で製作。発表の際の準備。(30分) 復習:発表して演じたのちにビデオで撮影し、より良くするためにはどうすべきか話し合う。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 発表後の意見交換を通して改善点を見出しアドバイスする。															
【使用テキスト】 インターネットでの物語検索、決定。人形作り、舞台づくりについて他の人形劇の映像を参考に学習。															
【参考図書】 人形や舞台づくりの実際を近隣のマリオネットを公演している絵本村に見学に行く。															
【学生へのメッセージ】 人形作りでは1つ1つ課題を、乗り越えて造形活動から効果的な表現にいたる流れを学習します。また子どもたちに発表し子どもたちに見てもらい喜びを体験しよう。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	ガイダンス 課題(劇づくり)の決定
2	内容の検討 昔話、絵本などからストーリーを選ぶ
3	内容の決定 ストーリーと劇内容の決定決
4	役割分担(舞台づくり、背景製作、人形製作、小道具)、台本作り 演じる場所の決定
5	製作①原案検討 子どもの招待(保育園、幼稚園、施設)
6	製作②原案決定
7	製作③材料購入
8	製作④製材・加工
9	製作⑤製材・加工
10	製作④製材・加工
11	製作⑤製材・加工
12	製作⑥加工・着色
13	製作⑦加工・着色
14	製作⑧組立・完成
15	製作終了 完成品提出
16	役者、音響、ライトを交互に担当
17	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討①
18	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討②
19	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討③
20	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討④
21	全体練習① 導入の検討 手遊び 司会進行
22	全体練習② 導入手遊び決定
23	全体練習③ 効果的なライト 効果音
24	全体練習④
25	全体練習⑤
26	発表準備⑥
27	発表
28	片づけ
29	ビデオ撮影 意見交換
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO320B1	
授業科目	保育技術研究Ⅰ				担当教員	吉田 百加利	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。							
(授業の概要) 子どもの発達を踏まえ、パネル型シアターの製作や演示、子どもとの遊び、年中行事への理解を通して保育実践のための技術の修得を目指す。							
(授業の到達目標) ・保育技術に関して理解を深める。 ・子どもの発達に応じた遊びとその工夫を身につける。 ・年中行事と環境設定への理解を深める。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 発表40% 学習マナー60% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 次回のテーマに向けて工夫点を考え、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: 授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は添削のうえ返却する。発表作品は映像等を活用し、相互に評価したあと担当が総括する。							
【使用テキスト】 必要に応じて提示、配布							
【参考図書】 「実習に役立つパネルシアターハンドブック」 古宇田亮順 萌文書林							
【学生へのメッセージ】 自ら学ぶ姿勢をもって授業に臨んでください。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	パネル型シアター題材選び①
3	パネル型シアター題材選び②
4	パネル型シアター製作①
5	パネル型シアター製作②
6	パネル型シアター製作③
7	パネル型シアター製作④
8	パネル型シアター製作⑤
9	パネル型シアター製作⑥
10	パネル型シアター製作⑦
11	パネル型シアター製作⑧
12	パネル型シアター製作⑨
13	パネル型シアター製作⑩
14	シナリオ作成①
15	シナリオ作成②
16	シナリオ作成③
17	子どもとの遊び①
18	子どもとの遊び②
19	子どもとの遊び③
20	パネル型シアター演示練習①
21	パネル型シアター演示練習②
22	パネル型シアター演示練習③
23	パネル型シアター演示練習④
24	発表
25	発表の反省、課題
26	年中行事 春
27	年中行事 夏
28	年中行事 秋
29	年中行事 冬
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO320B1	
授業科目	保育技術研究Ⅰ				担当教員	田川 智美	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 子どもの音楽活動である歌うこと、合奏すること、リズムに合わせて活動することを主に、実践的な能力と技術、表現力を身につける。							
(授業の概要) 子どものあそびには子供の成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。							
(授業の到達目標) ・子どもの年齢や状況を考え、題材を選択しアレンジすることができる。 ・本質を理解し、表現活動ができる。 ・実践活動を通して音楽の楽しさを知り、技術力を高める。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 授業への取り組み50% 発表40% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 次回のテーマに向けて工夫点を考え、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: 授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 発表作品は映像等を活用し、相互に批評したあと担当が総括する。							
【使用テキスト】 授業内で配布。							
【参考図書】 なし							
【学生へのメッセージ】 音楽を通して、表現することの楽しさを知り、実践・発表を通して、保育現場で役立つような力をつけていきます。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション 題材を考える
2	子どものための音楽劇について研究 題材について
3	子どものための音楽劇研究 役割について
4	子どものための音楽劇研究 ①ストーリー編成
5	子どものための音楽劇研究 ②ストーリー編成
6	子どものための音楽劇研究 ③ストーリー編成
7	子どものための音楽劇研究 ①実践練習 パート毎の練習
8	子どものための音楽劇研究 ②実践練習 パート毎の練習
9	子どものための音楽劇研究 ③実践練習 パート毎の練習
10	子どものための音楽劇研究 ④実践練習 パート毎の練習
11	子どものための音楽劇研究 ⑤実践練習 パート毎の練習
12	子どものための音楽劇研究 ⑥実践練習 パート毎の練習
13	子どものための音楽劇研究 ⑦実践練習 パート毎の練習
14	子どものための音楽劇研究 ① 実践練習 全体練習
15	子どものための音楽劇研究 ②実践練習 全体練習
16	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
17	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
18	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
19	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
20	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
21	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
22	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
23	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
24	公演練習①
25	公演練習②
26	公演練習③
27	公演練習④
28	公演練習⑤
29	技術の実践発表
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO320B1	
授業科目	保育技術研究Ⅰ				担当教員	津野 武嗣	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	通年	2	60	演習	必修	必修	必修
(授業の目的) 2年次前期に県内の幼稚園保育園を招いた発表会の上演に向けた準備を通して、演技を中心に表現技術を身に着けることで、保育現場で劇あそびを展開し、その補助をできるようにする。							
(授業の概要) 子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。							
(授業の到達目標) ・協力して課題に取り組むことができる。 ・自ら課題を見つけ、率先して解決に向けて行動することができる。 ・意思疎通を図るための努力を惜しまない。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。						○	
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 平常点50% 課題に取り組む姿勢50% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 次回のテーマに向けて工夫点を考え、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: 授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は添削のうえ返却する。発表作品は映像等を活用し、相互に批評したあと担当が総括する。							
【使用テキスト】 毎回の授業で資料配布							
【参考図書】 なし							
【学生へのメッセージ】 ・すべてワークショップの形成の授業とする。 ・挨拶・自己紹介…具体的に繰り返し訓練する。 ・授業の前に発声練習。身に着けることが大事。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	自己紹介 立つ・歩く 重心と重心移動と呼吸の仕組
2	子供たちと向き合う、コミュニケーションの多様な回路を作る
3	詩の朗読 金子みすずの詩の朗読
4	呼吸・発声・発音の基本と問題点 言葉の豊かな立体化のための素読
5	詩の朗読 長田弘の詩の朗読
6	聞こえる声と届く声についての違いを考える。 喉声と身体の声の違い。 言葉の立体化を模索する
7	昔話を聞かせる 具体的な作品をテキストに
8	興味を持たせる語り方・話し方、その呼吸と間について
9	紙芝居 興味を持たせる・ストーリーの展開と表現
10	絵の展開と文との関係 楽しく・面白く・見せる・聞かせるポイント
11	童謡・唱歌を題材に 日本語の発音の基本とメロディ
12	歌う・表情・身振り手振り・動きの表現を探るワークショップ
13	個人、グループでの作品発表のための稽古①
14	個人、グループでの作品発表のための稽古②
15	成果発表会
16	自己紹介と子どもたちへの声かけ。姿勢・立ち方・歩き方・発声・呼吸の基本レッスン。授業15分間は基本レッスンを行う。
17	昔話1・2。絵本の読み聞かせの基本
18	子どもたちへの話しかけ・問いかけ。一緒に遊び、歌い、躍り、演ずる。
19	子どもたちへの話しかけ・問いかけ。一緒に遊び、歌い、躍り、演ずる。
20	絵本の立体化。歌い手・躍り手・役者・ナレーターに分かれ楽しい舞台作品に仕上げる。
21	絵本の立体化。歌い手・躍り手・役者・ナレーターに分かれ楽しい舞台作品に仕上げる。
22	発表に向けての稽古①
23	発表に向けての稽古②
24	発表に向けての稽古③
25	発表に向けての稽古④
26	発表に向けての稽古⑤
27	発表に向けての稽古⑥
28	発表に向けての稽古⑦
29	リハーサル
30	成果発表

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	OT322B2	
授業科目	保育技術研究Ⅱ				担当教員	三井正人	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	通年	2	60	演習	選択	－	－
(授業の目的) 保育所指針、教育要領、発達の様子を踏まえて保育実践のための特に表現領域の造形製作(平面・立体造形)における教材開発の能力と技術を身につける。							
(授業の概要) 子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。							
(授業の到達目標) 人形劇(15分程度の)マリオネットの人形製作、舞台製作、発表							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。							
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。							
【評価方法】 製作状況の評価。発表時の積極性。(100%)							
【準備学習(予習・復習等)】 予習:人形作り、舞台づくりは授業では作り方の検討。授業外で製作。発表の際の準備。(30分) 復習:発表して演じたのちにビデオで撮影し、より良くするためにはどうすべきか話し合う。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 発表後の意見交換を通して改善点を見出しアドバイスする。							
【使用テキスト】 インターネットでの物語検索、決定。人形作り、舞台づくりについて他の人形劇の映像を参考に学習。							
【参考図書】 人形や舞台づくりの実際を近隣のマリオネットを公演している絵本村に見学に行く。							
【学生へのメッセージ】 人形作りでは1つ1つ課題を、乗り越えて造形活動から効果的な表現にいたる流れを学習します。また子どもたちに発表し子どもたちに見てもらい喜びを体験しよう。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	ガイダンス 課題(劇づくり)の決定
2	内容の検討 昔話、絵本などからストーリーを選ぶ
3	内容の決定 ストーリーと劇内容の決定決
4	役割分担(舞台づくり、背景製作、人形製作、小道具)、台本作り 演じる場所の決定
5	製作①原案検討 子どもの招待(保育園、幼稚園、施設)
6	製作②原案決定
7	製作③材料購入
8	製作④製材・加工
9	製作⑤製材・加工
10	製作④製材・加工
11	製作⑤製材・加工
12	製作⑥加工・着色
13	製作⑦加工・着色
14	製作⑧組立・完成
15	製作終了 完成品提出
16	役者、音響、ライトを交互に担当
17	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討①
18	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討②
19	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討③
20	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討④
21	全体練習① 導入の検討 手遊び 司会進行
22	全体練習② 導入手遊び決定
23	全体練習③ 効果的なライト 効果音
24	全体練習④
25	全体練習⑤
26	発表準備⑥
27	発表
28	片づけ
29	ビデオ撮影 意見交換
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	OT322B2	
授業科目	保育技術研究Ⅱ				担当教員	吉田 百加利	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	通年	2	60	演習	選択	－	－
(授業の目的) 子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。							
(授業の概要) 子どもの発達を踏まえ、パネル型シアターの製作や演示、子どもとの遊び、年中行事への理解を通して保育実践のための技術の修得を目指す。							
(授業の到達目標) ・保育技術に関して理解を深める。 ・子どもの発達に応じた遊びとその工夫を身につける。 ・年中行事と環境設定への理解を深める。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 発表40% 学習マナー60% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 次回のテーマに向けて工夫点を考え、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: 授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は添削のうえ返却する。発表作品は映像等を活用し、相互に評価したあと担当が総括する。							
【使用テキスト】 必要に応じて提示、配布							
【参考図書】 「実習に役立つパネルシアターハンドブック」 古宇田亮順 萌文書林							
【学生へのメッセージ】 自ら学ぶ姿勢をもって授業に臨んでください。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	パネル型シアター題材選び①
3	パネル型シアター題材選び②
4	パネル型シアター製作①
5	パネル型シアター製作②
6	パネル型シアター製作③
7	パネル型シアター製作④
8	パネル型シアター製作⑤
9	パネル型シアター製作⑥
10	パネル型シアター製作⑦
11	パネル型シアター製作⑧
12	パネル型シアター製作⑨
13	パネル型シアター製作⑩
14	シナリオ作成①
15	シナリオ作成②
16	シナリオ作成③
17	子どもとの遊び①
18	子どもとの遊び②
19	子どもとの遊び③
20	パネル型シアター演示練習①
21	パネル型シアター演示練習②
22	パネル型シアター演示練習③
23	パネル型シアター演示練習④
24	発表
25	発表の反省、課題
26	年中行事 春
27	年中行事 夏
28	年中行事 秋
29	年中行事 冬
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	OT322B2	
授業科目	保育技術研究Ⅱ				担当教員	田川 智美	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	通年	2	60	演習	選択	—	—
(授業の目的) 子どもの音楽活動である歌うこと、合奏すること、リズムに合わせて活動することを主に、実践的な能力と技術、表現力を身につける。							
(授業の概要) 子どものあそびには子供の成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。							
(授業の到達目標) ・子どもの年齢や状況を考え、題材を選択しアレンジすることができる。 ・本質を理解し、表現活動ができる。 ・実践活動を通して音楽の楽しさを知り、技術力を高める。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 授業への取り組み50% 発表40% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 次回のテーマに向けて工夫点を考え、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: 授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 発表作品は映像等を活用し、相互に批評したあと担当が総括する。							
【使用テキスト】 授業内で配布。							
【参考図書】 なし							
【学生へのメッセージ】 音楽を通して、表現することの楽しさを知り、実践・発表を通して、保育現場で役立つような力をつけていきます。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション 題材を考える
2	子どものための音楽劇について研究 題材について
3	子どものための音楽劇研究 役割について
4	子どものための音楽劇研究 ①ストーリー編成
5	子どものための音楽劇研究 ②ストーリー編成
6	子どものための音楽劇研究 ③ストーリー編成
7	子どものための音楽劇研究 ①実践練習 パート毎の練習
8	子どものための音楽劇研究 ②実践練習 パート毎の練習
9	子どものための音楽劇研究 ③実践練習 パート毎の練習
10	子どものための音楽劇研究 ④実践練習 パート毎の練習
11	子どものための音楽劇研究 ⑤実践練習 パート毎の練習
12	子どものための音楽劇研究 ⑥実践練習 パート毎の練習
13	子どものための音楽劇研究 ⑦実践練習 パート毎の練習
14	子どものための音楽劇研究 ① 実践練習 全体練習
15	子どものための音楽劇研究 ②実践練習 全体練習
16	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
17	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
18	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
19	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
20	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
21	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
22	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
23	子どものための音楽劇研究 実践練習 全体練習
24	公演練習①
25	公演練習②
26	公演練習③
27	公演練習④
28	公演練習⑤
29	技術の実践発表
30	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	OT322B2									
授業科目	保育技術研究Ⅱ				担当教員	津野 武嗣									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
2年	通年	2	60	演習	選択	－	－								
(授業の目的) 2年次前期に県内の幼稚園保育園を招いた発表会の上演に向けた準備を通して、演技を中心に表現技術を身に着けることで、保育現場で劇あそびを展開し、その補助をできるようにする。															
(授業の概要) 子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。															
(授業の到達目標) ・協力して課題に取り組むことができる。 ・自ら課題を見つけ、率先して解決に向けて行動することができる。 ・意思疎通を図るための努力を惜しまない。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。	○	(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身に着けていること。	○														
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身に着けていること。	○														
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 平常点50% 課題に取り組む姿勢50% 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 次回のテーマに向けて工夫点を考え、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: 授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は添削のうえ返却する。発表作品は映像等を活用し、相互に批評したあと担当が総括する。															
【使用テキスト】 毎回の授業で資料配布															
【参考図書】 なし															
【学生へのメッセージ】 ・すべてワークショップの形成の授業とする。 ・挨拶・自己紹介…具体的に繰り返し訓練する。 ・授業の前に発声練習。身に着けることが大事。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	自己紹介 立つ・歩く 重心と重心移動と呼吸の仕組
2	子供たちと向き合う、コミュニケーションの多様な回路を作る
3	詩の朗読 金子みすずの詩の朗読
4	呼吸・発声・発音の基本と問題点 言葉の豊かな立体化のための素読
5	詩の朗読 長田弘の詩の朗読
6	聞こえる声と届く声についての違いを考える。 喉声と身体の声の違い。 言葉の立体化を模索する
7	昔話を聞かせる 具体的な作品をテキストに
8	興味を持たせる語り方・話し方、その呼吸と間について
9	紙芝居 興味を持たせる・ストーリーの展開と表現
10	絵の展開と文との関係 楽しく・面白く・見せる・聞かせるポイント
11	童謡・唱歌を題材に 日本語の発音の基本とメロディ
12	歌う・表情・身振り手振り・動きの表現を探るワークショップ
13	個人、グループでの作品発表のための稽古①
14	個人、グループでの作品発表のための稽古②
15	成果発表会
16	自己紹介と子どもたちへの声かけ。姿勢・立ち方・歩き方・発声・呼吸の基本レッスン。授業15分間は基本レッスンを行う。
17	昔話1・2。絵本の読み聞かせの基本
18	子どもたちへの話しかけ・問いかけ。一緒に遊び、歌い、躍り、演ずる。
19	子どもたちへの話しかけ・問いかけ。一緒に遊び、歌い、躍り、演ずる。
20	絵本の立体化。歌い手・躍り手・役者・ナレーターに分かれ楽しい舞台作品に仕上げる。
21	絵本の立体化。歌い手・躍り手・役者・ナレーターに分かれ楽しい舞台作品に仕上げる。
22	発表に向けての稽古①
23	発表に向けての稽古②
24	発表に向けての稽古③
25	発表に向けての稽古④
26	発表に向けての稽古⑤
27	発表に向けての稽古⑥
28	発表に向けての稽古⑦
29	リハーサル
30	成果発表

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	BO321B2									
授業科目	基礎技能(器楽)				担当教員	田川 智美・関口 和子 青木 陽香									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年・2年	通年	4	120	演習	選択	選択	選択必修								
(授業の目的) 保育実践において必要なピアノ演奏の基礎的・基本的な技能を習得させ、自らが演奏する喜びや楽しさを体験するとともに、幼児のリズムや伴奏などの音楽活動を活発に展開するための技能を身に付ける。															
(授業の概要) バイエル教則本から演習を始めることにより、ピアノ演奏の基礎的・基本的な演奏技能を習得させる。この演習を通して、音楽に関する基礎的知識を理解することは勿論、音楽的感性を高め、将来保育者として最も必要な幼児の豊かな音楽活動を活発にするための楽器演奏の基礎的技能を身につけさせる。演習は、それぞれの学習者の進度に合わせて展開する。															
(授業の到達目標) ・読譜力や演奏技術を習得する。 ・保育実践に必要な伴奏をマスターすることを目標とする。 ・より高度の技術を身につけさせるため個々にあう教材で展開する。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td></td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。															
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 授業への取り組み60% 実技試験40% 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 次回課題曲の練習(60分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 個々のレッスン時に指導、コメントする															
【使用テキスト】 「バイエル教則本」全音、「こどもの歌ベストテン」ドレミ楽譜、その他(進度に応じて担当教員より指示)															
【参考図書】 個々の進度に応じ担当教員より紹介															
【学生へのメッセージ】 上達するために練習を欠かさないこと。繰り返しの練習により、より高度の技術をつけること。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要 (1・2年同様)
1	音楽歴調査によるクラス分け 担当教員によるオリエンテーション
2	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について①
3	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について②
4	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について③
5	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について④
6	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑤
7	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑥
8	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑦
9	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑧
10	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑨
11	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑩
12	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑪
13	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑫
14	試験曲の個人指導まとめ①
15	試験曲の個人指導まとめ②
16	音楽歴調査によるクラス分け 担当教員によるオリエンテーション
17	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑬
18	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑭
19	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑮
20	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑯
21	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑰
22	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑱
23	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑲
24	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑳
25	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について㉑
26	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について㉒
27	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について㉓
28	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について㉔
29	試験曲の個人指導まとめ③
30	試験曲の個人指導まとめ④

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(内容・方法)		科目番号	OT322B2	
授業科目	子育て支援実践演習				担当教員	里見 達也	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	集中	1	30	演習	選択	－	－
(授業の目的) 子育て支援に関する現代的な課題について、プロジェクトを組みながら保育現場の運営という視点から考察することを通して、子育て支援について学びを深める。							
(授業の概要) 保育現場において、子育て支援の運営面での心構えや効果的な方法について、プロジェクトを組んで、実際の地域の子ども課や子育て支援施設を見学・参加しながら、そのシーズとニーズを整理し、自分たちで考えられる改善策を探る。							
(授業の到達目標) ・保育現場でのさまざまな課題について考察する。 ・各施設のこれからの役割や運営方法について話し合う。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1) 社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。							
(3) 保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 課題・発表(反省点や展開の工夫、実践発表)50% 学習マナー(練習)50% 計100%							
【準備学習(予習・復習等)】 見学先の施設について、インターネット等で事前に調べておくとともに、毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出すること。(60分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 確認後、各自に返却する予定である。							
【使用テキスト】 必要に応じて資料を提示、配布							
【参考図書】 「・・・育つ・つながる・・・子育て支援 具体的な技術・態度を身につける32のリスト」 子育て支援コンピテンシー研究会／編著 チャイルド本社							
【学生へのメッセージ】 子育て支援の運営に関心があり、積極的にかかわろうとする姿勢を求めます。なお、子育て支援施設の見学を実施する予定ですので、参加できる学生を求めます。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	子育て支援施設の現状と役割
3	園組織論・園経営論
4	行政サービスの現状と課題
5	プロジェクト1(実態把握①:地域の子ども課)
6	プロジェクト1(実態把握②:子育て支援センター他)
7	プロジェクト1(ニーズ調査:子育て支援者と保護者)
8	グループディスカッション①
9	プロジェクト2(実態把握①:地域の子ども課)
10	プロジェクト2(実態把握②:子育て支援センター他)
11	プロジェクト2(ニーズ調査:子育て支援者と保護者)
12	グループディスカッション②
13	グループディスカッション③
14	発表準備
15	発表・まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)	科目番号	NT401D2										
授業科目	保育実習Ⅰ(保育所)				担当教員	井上・三井・吉田 福田・清水・川村									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
1年	集中	2	80	実習	選択	－	必修								
(授業の目的) ・保育所の現場でその機能や生活、保育士の役割等について実際の体験を通して学習し、保育士とし学びを深めることを目的とする。 1. 施設の概要を把握する。 2. 乳幼児と接して発達の特性を知る。 3. 子どもの遊びを観察する。 4. 担当保育士の指導を受け、デイリープログラムの一部に参加する・ 5. 安全、疾病予防対策等に対する配慮、処置を学ぶ。															
(授業の概要) ・保育所の現場でその機能や生活、保育士の役割について実際の体験を通して学習し、将来の保育士としての活動の源泉とする。															
(到達目標) 保育実習Ⅰにおいては以下の①～⑥についての目標を達成する。 ①保育所保育指針や、施設の方針・特色を理解して実習に取り組む。 ②施設での一日の流れを理解する。 ③子どもの発達段階を理解して子どもに対応する。 ④子どもの健康・安全に配慮する。 ⑤保育技術(手遊び、読み聞かせ、ピアノ等)を積極的に披露する。 ⑥実習日誌を適切に記述・提出する。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○														
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。															
【準備学習(予習・復習等)】 事前:具体的な実習課題を設定し、達成のために必要な知識・技術の修得に努める。(30分) 事後:日誌の記録等から実践を振り返る。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 各自実習到達目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。															
【使用テキスト】 「学生ハンドブック」															
【参考図書】 「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子編 「保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント」ミネルヴァ書房編集部 「施設実習の常識」教育・保育実習を考える会 編 蒼丘書林															
【学生へのメッセージ】 実習での学びは、とても重要です。学内での学習をもとに、実習では、目的を持った積極的な行動を心がけましょう。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1 5 45	学外実習（1年次 10月の2日間 ・ 1年次 1月～2月の8日間）。 実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)		科目番号	NT402D2	
授業科目	保育実習Ⅰ(施設)				担当教員	三井・井上・吉田 清水・川村・福田	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	集中	2	80	実習	選択	－	必修

(授業の目的)

施設のの現場でその機能や生活、保育士の役割等について実際の体験を通して学習し、保育士とし学びを深めることを目的とする。

- ・実習施設の概要を把握する(施設、設備、環境等が利用児(者)の生活のためにどの様に工夫されているのか)
- ・実習施設の1日の流れ及び利用児(者)の生活の実際を理解する。
- ・実習施設の人的環境、物的環境を理解する(他の専門職職員との交流、保育や生活の準備、環境設定の手伝いを通して現場での配慮や工夫を理解する)。
- ・施設職員としての保育士の職務内容、役割を理解し、担当保育士の補助を行う。
- ・安全、疾病防止などに対する配慮、処置を学ぶ。
- ・家庭、地域社会・関係機関とのかかわりを理解する。

(授業の概要)

- ・施設の現場でその機能や生活、保育士の役割等について実際の体験を通して学習し、将来の保育士としての活動の源泉とする。

(到達目標)

保育実習Ⅰ(施設)においては以下の①～③について目標を達成する。

- ①施設の内容と機能を理解する。
- ②施設における入所・利用児(者)の姿や生活を観察し、実践的な接触を通して理解する。
- ③保育士の役割、職務内容や保育の方法を理解する。

(卒業認定・学位授与の方針との関連)

ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○

【評価方法】

実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。

【準備学習(予習・復習等)】

事前:具体的な実習課題を設定し、達成のために必要な知識・技術の修得に努める。(30分)
事後:日誌の記録等から実践を振り返る。(30分)

【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】

各自実習到達目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。

【使用テキスト】

「学生生活ハンドブック」
「施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習」萌文書林

【参考図書】

「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子編
「保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント」ミネルヴァ書房編集部
「保育士を目指す人の福祉施設実習」 蒼丘書林

【学生へのメッセージ】

実習での学びは、とても重要です。学内での学習をもとに、実習では、目的を持った積極的な行動を心がけましょう。

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1 5 45	学外実習（1年次 3月の10日間 もしくは 2年次 8月～12月の10日間）。 実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)	科目番号	NT403B2		
授業科目	保育実習指導Ⅰ(保育所)				担当教員	井上 聖子・福田 光弘	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年	通年	1	30	演習	選択	－	必修
(授業の目的) ①これまで学んだ講義の内容を活かして、実習の場において総合的な実践が行える力を養う。 ②実習の心構えや実習を円滑に行うための事前指導により、実習に対する不安を軽減し、実習の目標を明確にする。 ③実習での実践を通し、保育士として必要な資質、能力、技術、倫理観等を習得する。							
(授業の概要) 保育実習の意義・目的を理解したうえで、実習における自らの課題を明確にする。また、実習施設における職業倫理について学び、具体的な実習の計画、実践、観察、記録、評価の流れを理解する。さらに、事後指導を通して、実習を振り返り、新たな課題や目標を明確にする。							
(授業の到達目標) ・実習施設の役割、機能、保育士の職務、倫理観、子どもの理解、援助、保育指導計画と保育技術等について、理論と実践から習得する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。							
【準備学習(予習・復習等)】 予習:事前に課題を出すので、それについて調べてくること。(30分) 復習:授業内容をまとめ、実習に向けての課題を見つけ、解決していくこと。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 課題は、添削のうえ返却をする。							
【使用テキスト】 「幼稚園・保育園実習 まるわかりガイド」発行者 田村正隆 (株)ナツメ社							
【参考図書】 「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子編 「施設実習の常識」教育・保育実習を考える会 編 蒼丘書林 「保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント」ミネルヴァ書房編集部							
【学生へのメッセージ】 意欲・積極性に富み、向上心のある保育士を目指しましょう。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	実習日程及び実習全体の説明 実習先の開拓について ①電話の掛け方 ②訪問時の注意事項
2	保育所の役割、機能、関連法規(1) ①保育所とは ②保育所保育指針の概略
3	実習先の把握 実習依頼文書の作成と発送
4	実習段階について 見学実習・観察実習・参加実習・責任実習
5	実習の心構えと目標の立て方について
6	実習日誌の書き方(1)
7	地元保育所への訪問、見学
8	保育所見学の振り返りと学びの発表 実習日誌の書き方(2)
9	オリエンテーションについて ①電話の掛け方 ②訪問時の注意事項
10	模擬授業の実施とそれに対する評価(自己紹介)
11	子どもの発育・発達の理解と援助について
12	10月実習に関する指導 実習中の諸注意と持参書類配布
13	10月実習の振り返りと学び
14	1月実習に関する指導 実習中の諸注意と持参書類配布 礼状の書き方とレポート指導
15	1月実習の振り返りと学び 実習アンケート パネルシアターの課題について 次年度保育実習開拓指導

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)	科目番号	NT404B2		
授業科目	保育実習指導Ⅰ(施設)				担当教員	三井 正人・清水 健	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年・2年	後期～前期	1	30	演習	選択	－	必修
(授業の目的) ①これまで学んだ講義の内容を活かして、実習の場において総合的な実践が行える力を養う。 ②実習の心構えや実習を円滑に行うための事前指導により、実習に対する不安を軽減し、実習の目標を明確にする。 ③実習での実践を通し、保育士として必要な資質、能力、技術、倫理観等を習得する。							
(授業の概要) 保育実習の意義・目的を理解したうえで、実習における自らの課題を明確にする。また、実習施設における職業倫理について学び、具体的な実習の計画、実践、観察、記録、評価の流れを理解する。さらに、事後指導を通して、実習を振り返り、新たな課題や目標を明確にする。							
(授業の到達目標) ・実習施設の役割、機能、保育士の職務、倫理観、子どもの理解、援助、保育指導計画と保育技術等について、理論と実践から習得する。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。							
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。							
【準備学習(予習・復習等)】 事前: 予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。(30分) 事後: ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 実習事前指導においては、指導内容について毎時フィードバックする。 実習事後指導においては、実習後面談を通して実習での学生個々の課題や成果をフィードバックする。							
【使用テキスト】 「実習の手引き」(本学教員作成図書) 「保育士をめざす人の福祉施設実習」愛知県保育実習連絡協議会 編 (株)みらい							
【参考図書】 「施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習」駒井美智子編著 萌文書林							
【学生へのメッセージ】 意欲・積極性に富み、向上心のある保育士を目指しましょう。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	児童福祉施設の役割、機能、関連法規(2) ③実習の意義と目的 ④実習の段階と内容
2	障害の理解と障害児(者)への対応 虐待の理解と被虐待児への対応
3	体験実習に関する指導(1)実習に向けての準備
4	体験実習に関する指導(2)実習中の諸注意と持参書類配布
5	10月実習の振り返りと学び(グループ討議)
6	保育実習のマナー(2)③掃除 ④食事 ⑤言葉づかい
7	配属先施設に関する学習会(1)概要と種別の把握
8	配属先施設に関する学習会(2)利用者支援の方法
9	配属先施設に関する学習会(3)事例検討
10	実習オリエンテーション実施に向けての指導
11	実習の直前指導(1)レポートの指導
12	実習の直前指導(2)当日持参書類の確認・実習終了後の提出物について
13	実習中の諸注意と実習に臨む姿勢
14	評価表に基づく個人面談—実習の総括・評価—
15	実習終了後の反省と今後の課題の明確化・実習に関するアンケート—実習の総括・評価—

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)		科目番号	NT405D2	
授業科目	保育実習Ⅱ(保育所)				担当教員	吉田・井上・三井 川村・福田・清水	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	集中	2	80	実習	選択	—	選択必修
(授業の目的) ・保育所の保育を実際に実践し、家庭や地域の実態にも触れながら以下の目標を達成する。 1. 施設の内容と機能を理解する。 2. 施設における乳幼児の姿や生活を観察し、実践的な接触を通して理解する。 3. 保育士の役割、職務内容や保育の方法を理解する。 4. 保育計画及び週案、日案の理解と実践を体験する。 5. デイリープログラムの理解と実践を体験する。 6. 保育士の指導下における乳幼児保育の担当を体験する。 7. 発達段階での個人差の大きい子どもへの配慮とかかわりを体験する。 8. 保育士と保護者の連携を把握する。 9. 保護者の保育ニーズに基づく特別保育対策を理解する。							
(授業の概要) ・保育所の現場でその機能や生活、保育士の役割について実際の体験を通して学習し、将来の保育士としての活動の源泉とする。							
(到達目標) 保育実習Ⅱにおいては以下の①～⑥についての目標を達成する。 ①保育計画及び週案、日案を理解した実践が出来る。 ②デイリープログラムを理解した実践が出来る。 ③保育士の指導下において乳幼児保育の担当が出来る。 ④発達段階での個人差の大きい子どもへ配慮したかかわりが出来る。 ⑤保育士と保護者の連携を把握した実践が出来る。 ⑥保護者の保育ニーズに基づく特別保育対策を理解出来る。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。							
【準備学習(予習・復習等)】 事前:具体的な実習課題を設定し、達成のために必要な知識・技術の修得に努める。(30分) 事後:日誌の記録から実践を振り返り考察する。(30分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 各自実習到着目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。							
【使用テキスト】 「学生ハンドブック」							
【参考図書】 「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子編 「保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント」ミネルヴァ書房編集部							
【学生へのメッセージ】							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
	学外実習（2年次 9月の10日間）。 実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)		科目番号	NT406B2									
授業科目	保育実習指導Ⅱ(保育所)				担当教員	川村めぐみ・吉田百加利									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
2年	通年	1	30	演習	選択	—	選択必修								
(授業の目的) ・既習の教科や保育所実習Ⅰでの経験を基に課題を整理し、保育士としての総合的実践的能力を培う。 ・観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする															
(授業の概要) ・これまでの実習での学びを踏まえ、実習における課題と意義を明確にする。 ・保育者の役割、保育士の職務、子どもについての理解をさらに深め、保育の意義について総合的に学ぶ。															
(授業の到達目標) ・子どもをより深く理解したうえでの責任実習指導計画を立案できる。 ・実習の中で意欲的に学ぶ姿勢と保育実践力を身につける。 ・実習先での学習を客観的に振り返り、今後につながる成果と課題を明らかにする。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td></td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。															
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。															
【準備学習(予習・復習等)】 事前:テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める。(30分) 事後:授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 第1回目に各自到着目標を設定し、講義終了後、その評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。															
【使用テキスト】 「学生ハンドブック」 *実習関連資料は、授業で配布します。															
【参考図書】 「幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子編 「保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント」ミネルヴァ書房編集部															
【学生へのメッセージ】 就職を視野に入れ、授業は休まず出席し、提出物は期限までにしましょう。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	〈事前指導の内容〉 保育実習Ⅱの目的とねらいについて
3	保育実習Ⅰの振り返りと実習課題の確認
4	保育所の機能と役割、実習先の理解
5	子どもの理解と日誌の書き方(保育記録のとり方)
6	子どもの理解と指導計画について
7	指導計画の立案・作成のための留意点(部分実習)
8	指導計画の立案・作成のための留意点(責任実習)
9	実習直前ガイダンス①
10	実習直前ガイダンス②
11	〈事後指導の内容〉 実習の振り返りと自己評価①
12	実習の振り返りと自己評価②
13	実習報告会
14	自己課題の明確化と今後の目標
15	まとめ

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)		科目番号	NT407D2									
授業科目	保育実習Ⅲ(児童館)				担当教員	三井・井上・吉田 福田・川村・清水									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
2年	集中	2	90	実習	選択	－	選択必修								
(授業の目的) ・児童の健全育成施策の中心としての児童館の実態を知り、そこでの日常業務を通して展開される援助技術を学ぶ。 ・児童館の現場でその機能や生活、児童館職員の役割等について実際の体験を通して学習し、将来の児童厚生員としての活動の源泉とすることを目的とする。具体的には次のとおり。 ①児童館の役割と機能を理解する。 ②児童館を利用する児童について、生活や遊びの観察と実践的な接触を通して理解する。 ③児童館職員の役割と指導方法、職務内容について体験的に学習する。															
(授業の概要) ・児童館の現場でその機能や生活、児童館職員の役割について実際の体験を通して学習し、児童館での健全育成の意義について深く理解する。															
(到達目標) ①児童の放課後の活動を支える地域の小型児童館・児童センターで、児童館職員と同じ仕事を体験する。 ②児童の理解を深め、児童の生活を援助する専門職員としての関わりを学ぶ。 ③実習施設の概要を把握する(施設、設備、環境等が利用児の生活のためにどの様に工夫されているのか)。 ④実習施設の1日の流れ及び利用児の生活の実際を理解する。 ⑤実習施設の人的環境、物的環境を理解する(他の専門職職員との交流、生活の準備、環境設定の手伝いを通して現場での配慮 や工夫を理解する)。 ⑥施設職員としての児童館職員の職務内容、役割を理解し、担当職員の補助を行う。 ⑦安全、疾病防止等に対する配慮、処置を学ぶ。 ⑧家庭、地域社会、関係機関とのかかわりを理解する。 ⑨コミュニティワーカーとしての児童館職員の姿を学ぶ。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○														
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。															
【準備学習(予習・復習等)】 事前:具体的な実習課題を設定し、達成のために必要な知識・技術の修得に努める。(30分) 事後:日誌の記録等から実践を振り返る。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 各自実習到達目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。															
【使用テキスト】 『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論』一般財団法人 児童健全育成推進財団 『幼稚園・保育園実習 まるわかりガイド』高橋かほる監 ナツメ社															
【参考図書】 『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ① 健全育成論』一般財団法人 児童健全育成推進財団															
【学生へのメッセージ】 実習では、積極的な行動や学びの態度を心がけると同時に、健全育成についての理解を深めましょう。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	学外実習（2年次 8～9月の10日間 もしくは 12月の10日間）。 実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。
5	
45	

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)		科目番号	NT408B2									
授業科目	保育実習指導Ⅲ(児童館)				担当教員	福田 光弘									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
2年	前期	1	30	演習	選択	－	選択必修								
(授業の目的) 児童厚生施設の意義、目的を知り、児童とかかわる上で必要な資質・能力・技術の習得に向け実践的学習を行う。また、地域社会に対する理解を深め、連携の方法や保護者への子育て支援についても具体的に学習する。															
(授業の概要) 保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、保育士としての専門性や現場での実践的知識をより高めるための事前準備・事後考察を行う。児童館の現状、児童、利用者の実態、施設の社会的ニーズ等多角的に保育をとらえる視点を養い、より良い実習につなげることを目指す。															
(授業の到達目標) ・児童の特性や、家庭と地域、児童厚生施設の実態を知る。 ・子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力、子育て支援に必要な能力を身につける。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td></td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。															
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。															
【準備学習(予習・復習等)】 事前:テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める。(30分) 事後:授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 第1回目に各自到達目標を設定し、講義終了後、その評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。															
【使用テキスト】 実習の手引き															
【参考図書】 なし															
【学生へのメッセージ】 遅刻、欠席をしない。積極的にボランティアにも参加し、児童とかかわる機会を持とう。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	オリエンテーション
2	保育実習Ⅰの振り返りと自己課題の設定
3	保育実習Ⅲ(児童館実習)の意義と目的
4	児童館の役割と社会的ニーズ
5	個別援助活動—児童の特性と発達に応じたかかわりや遊び①
6	集団援助活動—児童の特性と発達に応じたかかわりや遊び②
7	記録の書き方と活用①
8	記録の書き方と活用②
9	実習目標について
10	実習指導案の書き方と活用①
11	実習指導案の書き方と活用②
12	実習中の心構え・諸注意 実習持参書類の確認
13	事後指導について
14	実習報告会と事後指導
15	総括

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)		科目番号	KT409D2	
授業科目	教育実習(幼稚園)				担当教員	三井・井上・吉田 川村・清水・福田	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
2年	集中	4	120	実習	選択	必修	—

(授業の目的)

(1)幼稚園の役割と機能を理解する。
(2)幼児期の子どもに対する理解(姿、生活、遊びなど)を深める。
(3)幼稚園教諭の職務内容や保育の方法、環境構成を理解する。
(4)幼稚園の教育内容の各領域を理解し、個々の指導技術を習得する。
(5)デイリープログラムの理解と実践を体験する。
(6)教育計画及び週案、日案の理解と立案の経験をする。
(7)教師の指導下における幼児教育の担当を体験する。
(8)子どもの発育、発達の個人差への配慮と援助の仕方を学ぶ。
(9)教師と保護者との連携を把握する。

(授業の概要)

幼稚園の現場で、その機能や教育、教諭の役割等について実勢の体験を通して学習し、将来の幼稚園教諭としての活動の源泉とする。

(授業の到達目標)

(1)幼稚園の役割と機能が理解出来る。
(2)幼児期の子どもに対する理解が深まった。
(3)幼稚園教諭の職務内容や保育の方法、環境構成を理解出来た。
(4)幼稚園の教育内容の各領域を理解し、個々の指導技術が習得出来た。
(5)デイリープログラムの理解と実践が理解出来た。
(6)教育計画及び週案、日案の理解と立案の経験をし、教師の指導下における幼児教育の担当が出来た。
(7)子どもの発育、発達の個人差への配慮と援助の仕方が理解出来た。
(8)教師と保護者との連携が把握出来た。

(卒業認定・学位授与の方針との関連)

ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○

【評価方法】

実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。

【準備学習(予習・復習等)】

事前:具体的な実習課題を設定し、達成のために必要な知識・技術の修得に努める。(30分)
事後:日誌の記録から実践を振り返り考察する。(30分)

【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】

各自実習到着目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。

【使用テキスト】

「学生ハンドブック」
「幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方」久富陽子編 萌文書林
「幼稚園・保育園 実習まるわかりガイド」監修／高橋かほる ナツメ社
*実習関連資料は授業で配布します。

【参考図書】

「新指針・新要領 イラスト図解ガイド ～保育課程の参考例も解説～」保育とカリキュラム編集部／編 ひかりのくに

【実習期間】

学外実習(2年次 6月)(3週間)

授 業 計 画

	授 業 概 要
見 学 ・ 観 察	○ 幼稚園の概要を把握する。 (実習園の沿革や教育の基本方針、ならびに立地条件、幼稚園内外の自然的環境等を把握する) ○ 幼稚園の1日の流れを理解する。 (時間と生活の流れ、およびその内容はどの様になっているのか) ○ 幼稚園の人的環境(対象幼児の構成、職員組織など)、物的環境(建物、遊具、教具等、幼児の生活、遊びのためにどのような配慮や工夫がなされているか)を理解する。 ○ 子どもの遊びを観察する。(指導的態度ではなく、自由に遊んでいる子どもの中に参加し、子どもの遊びの方法や工夫、争いや協力の仕方等を観察する) ○ 各領域がどのように達成されているかを知る。 ○ 教師の補助を行なう。(遊具の活用、教材の準備、清掃の仕方等)
参 加 実 習	○ 指導担当教諭の指導を受け、助手的立場で、幼児や教育活動に直接働きかけ、教諭の教育活動を経験的に理解する。 ・観察、受け入れ、個別検査 ・歌の指導、お話、紙芝居、絵本の読み聞かせ、手遊び、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアター等 ・自由遊びでのかかわり (遊びの様子を見ながら、鬼ごっこや童歌等の遊びを提案し、遊びがより発展するよう助言する) ・食事、排泄、着脱、清潔等の援助 ・その他 ○ 安全、疾病予防等に対する配慮、処置を学ぶ。 (遊具の使い方、交通安全、避難訓練、食中毒等) ○ 家庭、地域社会との関わりを理解する。 (園の行事、地域の行事等に参加する)
部 分 実 習	○ 子どもの活動のある一部分を受け持ち、指導する。 ・生活指導、健康、人間関係、環境、言葉、表現等の活動の一部を受け持ち指導する。 ・一日の保育の流れを乱さないように、指導案(細案)を作成する。 (対象児、内容、方法、時間等十分に考慮する) ・指導案(細案)を作成する場合は、指導担当教諭に相談し、助言を得る。
一 日 実 習	○ 実習園の指導計画(月・週案)を理解した上で、一日の指導案(日案)を立てて、実際に指導をする。 ・指導案は前もって、指導担当教諭の助言を得ながら早めに立て、期限厳守で提出する。 ・時間、活動等の配分や子どもの状況判断に十分留意して行
	実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)	科目番号	KT410B2		
授業科目	教育実習指導(幼稚園)				担当教員	川村めぐみ・清水 健	
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士
1年・2年	後期～前期	1	30	演習	選択	必修	選択
(授業の目的) 実習の基本的理解と実践的理解を養うとともに、実習への意欲を高め、より充実した実習となるように展開していく。							
(授業の概要) 今までの講義や演習で学習した理論や技術をより実践的・具体的・総合的に実習園で実践できるような展開方法を学ぶ。							
(授業の到達目標) ・幼稚園教育の基礎理解から子どもとのかかわりについて考える。 ・実習園の教育内容を知り、自分なりの視点を発表する。 ・責任実習指導案が立案できる。							
(卒業認定・学位授与の方針との関連)							
ディプロマ・ポリシー						卒業認定・学位授与	
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。						○	
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。						○	
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。						○	
【評価方法】 実習先からの評価票に基づき、可否にて判定を行う。							
【準備学習(予習・復習等)】 全時間を通して、幼稚園教育の内容を予習し、指導案を繰り返し作成し、実習を行って得た学びを文章としてまとめること。(60分)							
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 各自のテーマごとに提出される課題につき、添削の上返却する。模擬授業はグループ内の相互評価を行う。(評価についてはルーブリック等の評価表を用いる)							
【使用テキスト】 「学生ハンドブック」 「幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方」久富陽子編 萌文書林 「幼稚園・保育園 実習まるわかりガイド」監修／高橋かほる ナツメ社							
【参考図書】 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 平成30年							
【学生へのメッセージ】 実習はこれまでに学習した理論や技術の検証の場であると同時に社会人、職業人としての体験の場です。日々の授業の中で特に以下の事を意識して過ごしましょう。 ○遅刻厳禁！(チャイムと同時に出席確認を行うので要注意) ○課題及び提出物の期限厳守！(遅れ・未提出はいかなる場合であっても「－」評価となるので注意！) ○「実習の手引き」「テキスト」「実習日誌」は毎回持参する事。							

授 業 計 画

回	授 業 概 要
1	ガイダンスー教育実習の概要と事前事後指導の流れー
2	幼稚園の役割機能と関連法規(1)①実習の意義②幼稚園教育とは③幼稚園教育要領の理解
3	幼稚園の基礎知識ー実習園の結滞にあたってー(課題:実習園の特色について調べる)
4	実習生としてのマナーと心構え・実習先内諾訪問について(課題:実習園開拓・訪問・内諾書の提出)
5	実習課題の立て方・実習関連書類の作成(課題:実習目標・調査書の作成)
6	実習日誌について(課題:実習目標・教育目標・デイリープログラムの理解)
7	指導案の作成①指導計画作成のポイント整理
8	指導案の作成②部分指導案の書き方(実践)(課題:各自がねらいを設定し、部分指導案(細案)の作成)
9	模擬授業(1)(造形遊び)(課題:指導案の準備、教材研究、模擬授業の準備)
10	模擬授業(2)運動遊び(課題:指導案の準備、教材研究、模擬授業の準備)
11	模擬授業(3)(自然・環境・音楽・言葉)(課題:指導案の準備、教材研究、模擬授業の準備)
12	模擬授業のまとめと振り返り
13	教育実習の課題と心構え(直前指導)
14	実習終了後のアンケート及び反省会・事後指導(2)(個別)
15	課題の整理と振り返り

科目区分	専門教育科目	科目分類	専門科目(実習・他)		科目番号	BO412B2									
授業科目	保育・教職実践演習(幼稚園)				担当教員	吉田 百加利・清水 健 井上 聖子・三井 正人									
履修年次	開講時期	単位数	時間	授業形態	卒業要件	幼2種免	保育士								
2年	後期	2	30	演習	選択	必修	必修								
(授業の目的) 本授業では、卒業後に保育者として現場に立つ前に、今まで授業や実習などを通して学んできたことをまとめ、学生各自が今まで学んできたことを整理し、不足している学びについてはそれを補うことで、今後の保育者としての第一歩を確かなものとするを図る。															
(授業の概要) 学生は各グループ担当教員に分かれ、グループワークを行う。ワークシートなどを利用することで、グループ内の学生同士の意見交換が可能となるようにする。そのことで、学生同士が互いの保育観を見つめ直させ、今までの学びをより深く定着させる。															
(授業の到達目標) ・保育者として、今後とも研鑽していくべき課題を知る。 ・積極的に他の学生との意見交換を行うことで、自らの保育観をより深める。															
(卒業認定・学位授与の方針との関連) <table><tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>卒業認定・学位授与</td></tr><tr><td>(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。</td><td>○</td></tr><tr><td>(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。</td><td>○</td></tr></table>								ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与	(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○	(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与														
(1)社会人として必要な教養とマナーを身につけていること。	○														
(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技術を身につけていること。	○														
(3)保育の課題を積極的に探究していこうとする意欲を持っていること。	○														
【評価方法】 授業への取り組み50% 課題レポート30% 実習(討論含)20% 計100%															
【準備学習(予習・復習等)】 事前:テキストを読み、次回授業で行うことを確認する。(30分) 事後:授業内で提出を要求された提出物を作成する。(30分)															
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法】 提出物について、互いに発表させて、意見交換を図る。															
【使用テキスト】 小櫃智子・矢藤誠慈郎他著『保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み 幼稚園 保育所 編』わかば社															
【参考図書】 授業内で適宜配布する。															
【学生へのメッセージ】 遅刻、欠席をしない。提出物の期限は絶対厳守。															

授 業 計 画

回	授 業 概 要 と 準 備 学 習 (予習・復習等)
1	オリエンテーション(授業の進め方の説明・確認)
2	保育者への歩みと足跡
3	子ども理解の方法と実際
4	気になる子どもの行動の理解と対応
5	教育課程および全体的な計画を考える
6	保育内容と保育方法の研究Ⅰ
7	保育内容と保育方法の研究Ⅱ
8	協同的な学びと育ちへ
9	保育の振り返り
10	保護者および地域との関係づくり
11	幼保小の接続
12	園の安全管理
13	保育者の専門性
14	自分の保育者像を目指して
15	総括

実務経験のある教員等による授業科目及び単位数一覧

科目名	単位	教員名	実務経験
自然観察	2	五味 愛美	インタープリター(自然ガイド)
子どもの保健	2	出口 千絵	看護師
小児保健	2		
子どもの健康と安全	1		
保育実習Ⅰ(保育所)	2	保育士	各保育園の保育士
保育実習Ⅰ(施設)	2	施設職員	各施設の職員
保育実習Ⅱ(保育所)	2	保育士	各保育園の保育士
保育実習Ⅲ(児童館)	2	児童館職員	各児童館の職員
教育実習(幼稚園)	2	幼稚園教諭	各幼稚園の幼稚園教諭
計	17		

2020年度 帝京学園短期大学 / シラバス

発行日	2020 年4月1日
発行所	帝京学園短期大学
所在地	山梨県山梨市上神内川1150-1
	TEL 0553-23-1240
	FAX 0553-23-2101
編集者	帝京学園短期大学